

科目名	形態	単位	時間数	必修・選択	担当教員
法学(日本国憲法)	講義	2	30	必修	長屋 正憲

① 授業の到達目標及びテーマ

- ・立憲的意味の憲法を理解することができる。
- ・国民が主権者であるという意識を持たせることができる。
- ・法学（日本国憲法）を通じて、「考える」を養うことができる。

② 授業の概要

日本国憲法を中心に講義を進めていく。現在の日本では、憲法改正、環境問題、社会保障問題、消費者問題、情報化時代における表現問題等、現在の社会特有の新しい問題が生じている。これらの諸問題については、日本国憲法の知識をふまえた上で、解決にあたっていかなければならない。そのためには、我々1人1人が主権者である意識を持ち、日本国憲法を通じて広い視野をもった「憲法の眼」を養うことが重要といえる。そして、講義を通じて「憲法とは、生命、自由、財産の保護という国民の基本的な人権を守ることを最大の使命とする」ということを理解してもらうことを目的とする。

③ 授業の計画

1	国民の最高法規である「日本国憲法」の基本原則（国民主権・戦争放棄・基本的人権の尊重）を理解させるが、中心は「基本的人権」である。日本国憲法で規程されている人権に言及する。また、社会と国家のあり方の変化に対応した「新しい人権」が主張されてきている。それらはプライバシーの権、知る権利、環境権などである。既存の人権だけでなく、新しい人権についても理解させる。
2	
3	
4	
5	民法との関係では、経済的自由との関連を理解させる。
6	特に「財産取引と金融」「事故と不法行為」「消費者問題」について言及する。
7	
8	社会的な人権の中心となる「生存権」に言及し、生存権がさまざまな社会的な人権の基礎となる権利であり、社会保障法を具体的領域とする社会法の規範的基礎となる権利であることを理解させる。
9	
10	民法との関係では、保護を要する者（例 老人）に対し、親族による扶養や監護について規定する「親族法」や介護などを行う扶養義務者からの費用徴収は、民法の「扶養d法」と関係する。このような形で、民法と社会保障法とが関わっていることに言及する。
11	
12	社会保障の中心となる社会保険制度（例 現在大問題になっている年金制度）について言及する。
13	最近問題となっている長時間労働による過労死、解雇、女性の職場進出等の労働問題も生存権保障との関係で言及する。
14	まとめ
15	テストと解説

④ 教科書及び参考資料等 「エッセンシャル法学（第6版）」大谷實編著 成文堂

⑤ 学生に対する評価

定期試験の成績に基づき評価するが、出席状況、受講態度等も評価し、それを平常点として加算することもある。

科目名	形態	単位	時間数	必修・選択	担当教員
体育理論	講義	1	15	必修	坂部 良二（実務教員）

① 授業の到達目標及びテーマ

- ・運動やスポーツの合理的な実践方法について述べるができる。
- ・運動やスポーツの意義・効果について述べるができる。
- ・運動やスポーツを安全に行う必要性や方法についてまとめることができる。

② 授業の概要

本講義は、運動やスポーツの合理的な実践について学び、生涯にわたり運動やスポーツに親しむ資質や能力を育てる。さらに、健康の保持増進を図るには、その意義や効果、安全に運動やスポーツを行う必要性やその方法について理解する。

③ 授業の流れ

1	運動やスポーツが心身の発達に及ぼす効果と安全
2	余暇社会とスポーツ
3	スポーツ心理学
4	バイオメカニク
5	運動生理学・体力科学
6	スポーツとコンディショニング
7	文化としてのスポーツ
8	試験とまとめ

④ 教科書及び参考資料等

「新しい体育の授業づくり」 勝亦紘一・家田重晴共著 大日本図書

⑤ 学生に対する評価

試験、出席状況、提出物、学習態度等により、総合的に判断する。

科目名	形態	単位	時間数	必修・選択	担当教員
体育実技	実技	1	45	必修	坂部 良二（実務教員）

① 授業の到達目標及びテーマ

- ・各種目の個人技能・基礎的な技能の技能ポイントを理解し、安全に練習・ゲームができる。
- ・各種目の集団的な技能の技能ポイントを理解し、仲間と協力して練習・ゲームができる。
- ・身につけた個人技能・集団技能を活用し、攻防を工夫してゲームを楽しむことができ運動習慣を身につけ、体力の向上を図ることができる。

② 授業の概要

現代社会において、健康の大切さがいろんな場面で取り上げられている。中でも運動不足は社会的な問題となっている。

そこで、運動ができるようになる技能ポイントに留意して練習をし、仲間とともに協力したり役割分担したりしてゲームができるようになることをめざす。そして、運動することの大切さを理解し、運動習慣を身につけ、運動することの楽しさを味わい、併せて体力の向上をめざす。

③ 授業の流れ

1	オリエンテーション
2	ストレッチと簡単な運動遊び
3	バレーボール（個人技能）
4	バレーボール（集団技能）
5～7	バレーボール ゲーム
8	卓球・バドミントン（個人技能）
9	卓球・バドミントン（ルールと簡易ゲーム）
10～12	卓球・バドミントン ゲーム
13	バスケットボール（個人技能）
14	バスケットボール（集団技能）
15～17	バスケットボール ゲーム
18	フットサル（個人技能）
19	フットサル（集団技能）
20～22	フットサル ゲーム

尚、種目の順序は都合によって変更になる場合もあります。

④ 教科書および参考資料等 必要な資料は配布する。

⑤ 学生に対する評価

練習・ゲームでの活動の様子、出席率、学習態度等によって総合的に判断する。

科目名	形態	単位	時間数	必修・選択	担当教員
英語	演習	2	60	必修	飯島 優子

① 授業の到達目標

- ・基礎的な英文法を理解できる。
- ・文化の多様性について理解し、受け止めることができる。
- ・個人の持つ価値観は文化的背景の中で培われたものであることが理解できる。

② 授業の概要

国際化が進む今日、学校教育の場においても異文化の中で育ってきた児童・生徒が増加している。このような状況の中、教育に携わるものが世界共通語としての英語や異文化についての認識を高め、基礎的なコミュニケーション能力を身につけておくことが求められている。この講義では、保育園の生活を題材にしたテキストを用いて、基礎的な英語力を養いながら、文化の多様性を理解できる感性の獲得をめざす。

③ 授業の流れ

1	イントロダクション	16	11. Preparation for the Sports Day 12. The Sports Day 13. Going for a Walk 14. Discovering Autumn 15. Drawing & Letter Writing 16. A Snowy Day 17. Leaving for Home 18. School Diary 19. Bean-Throwing Day 20. With Thanks for a Wonderful School Year
2		17	
3	1. The School Year Begins	18	
4	2. Arrival	19	
5	3. Playtime in the Classroom	20	
6	4. In the Sandbox	21	
7	5. In the Playground	22	
8	6. Lunchtime	23	
9	7. Changing Clothes and Story Time	24	
10	8. Nap Time	25	
11	9. Blowing Bubbles	26	
12	10. A Sick Child	27	
13		28	
14		29	
15	前期テストとまとめ	30	後期テストとまとめ

④ 教科書および参考資料等

「新・保育の英語」 森田和子 (三修社)

⑤ 学生に対する評価

小テスト、前期テスト、後期テスト、および平常点で評価する。

科目名	形態	単位	時間数	必修・選択	担当教員
情報処理	演習	2	60	必修	松本 亜実

① 学生の到達目標

- ・保育現場の実戦を意識し、Office系ソフトウェアを利用できるようになる。
- ・Wordを利用してオリジナル園便りを作成できるようになる。
- ・インターネットリテラシーを理解し、情報のセキュリティ・著作権等を理解できるようになる。
- ・Excelでの基本機能を理解できるようになる。
- ・PowerPointでは、他者の立場に立ったプレゼンテーションを作成・発表できるようになる。

② 授業の概要

保育現場を意識した入力、文書作成の基本知識、関数、グラフ、スライドショーの作成方法を理解し実践力を身につける。またWeb情報の真意性、危険性を理解し、幼稚園教諭・保育士としての立場を意識した利用方法を身につける。Wordでは課題として保護者の求める情報を意識した「お知らせ」「オリジナル園便り」の作成を目的とする。後期はExcelの基本操作、関数やグラフの作成で実践力の向上、PowerPointはテーマを設定し課題を作成・発表する。課題作成に取り組むことで、自ら学ぶ意欲や探究心、保育者として誠実に相手の立場に立ち、わかりやすい情報伝達を意識することを目的とした発表を目指す。

③ 授業の流れ

1	ガイダンス、コンピュータの概要	16	前期復習
2	Word入力・書式	17	Excel基礎
3	Wordページ設定	18	Excel四則演算・関数1
4	Word書式 課題提出	19	Excelグラフ
5	Wordオブジェクトと文字1	20	Excelデータベース・小テスト
6	Wordオブジェクトと文字2	21	Power Point基礎
7	インターネットリテラシーレポート	22	Power Point基礎
8	Wordビジネス文書	23	Power Point計画・作成
9	Word罫線	24	Power Pointミニ発表
10	遠足のお知らせ課題制作	25	Power Point作成
11	遠足のお知らせ振り返り	26	Power Point作成
12	総合課題グループワーク話し合い	27	Power Point作成
13	Word総合課題 お便り作成	28	Power Point作成
14	Word総合課題 お便り作成	29	Power Point発表講評
15	講評・コンペ	30	Power Point発表講評

④ 教科書及び参考資料等

「30時間でマスターOffice 2016」

⑤ 学生に対する評価

課題提出により評価する。ただし授業参加意欲・発言等も考慮する。

科目名	形態	単位	時間数	必修・選択	担当教員
心理学	講義	2	30	必修	畔柳 守男

① 学生の到達目標及びテーマ

- ・心理学に興味を持ち、人の心を客観的にとらえようとする姿勢を持つ。
- ・人の心の法則についての知ろうとし、多面的、総合的に心をとらえる姿勢を持つ。
- ・心理学の基礎的な知識を身につける。

② 授業の概要

子どもを育てるプロである保育者を志す者にとって、人間の心理についての教養を身に付けることは大切なことである。人間は他の動物と違って心を持っている。そして、その心が暖かいものであってこそ、はじめて人間と呼べる。心理学では、その人間存在の本質である心について学び、科学的な目で人間の心を見、子どもたちの心を暖かく育てることができるようになることを目的としている。

③ 授業の流れ

1	心理学の概要。心理学の歴史 1
2	心理学の歴史 2
3	社会的行動 1
4	社会的行動 2
5	社会的行動 3
6	適応・不適応 1
7	適応・不適応 2
8	パーソナリティ 1
9	パーソナリティ 2
10	検査・測定
11	動機づけ 1
12	動機づけ 2
13	感情・情動 1
14	感情・情動 2
15	知覚・感覚まとめ

④ 教科書及び参考資料等

教科書は使用しない。教員が準備する資料で授業を行う。

「図解 心理学」(福屋武人編著 学術図書出版社)を参考にしている。

⑤ 学生に対する評価

小テストの集計結果を基準にするが、その他、出欠席、学習態度等も評価に加える。

科目名	形態	単位	時間数	必修・選択	担当教員
保育原理	講義	2	30	必修	彦坂美希（実務教員）

① 授業の到達目標及びテーマ

- ・保育の意義や保育の基本について説明できる。
- ・特定の教育・社会事象について、保育原理の概念や理論を用いて説明することができる。
- ・新しい知識を学ぶことに関心や意欲を持つことが出来る。

② 授業の概要

保育システムや保育現場のあり方が大きく変容しようとしている中で、保育者として子どもの最善の利益を守らねばなりません。そのために、保育の基本をふまえたうえで、過去から未来へ保育のあり方を深く考え続けることが重要です。

③ 授業の流れ

回	内 容	
1	保育の意義	オリエンテーション・保育とは何か＝理念と概念
2		児童の最善の利益を考慮した保育及び保育ニーズ
3		保育及び保育所保育指針の社会的意義
4		保護者との協働と子育て支援
5	保育の基本	養護と教育の一体性、発達過程に応じた保育
6		環境を通して行う保育、
7		倫理観に裏付けられた保育士の専門性、保護者との緊密な連携
8	保育の内容と方法 の基本	現在を最もよく生き、望ましい未来を作り出す力の基礎を培う。
9		生活と遊びを通して総合的に行う保育
10		保育における個と集団への配慮
11		保育の計画と評価
12	保育の歴史の変遷	諸外国の保育の思想と歴史
13		日本の保育の思想と歴史
14	試験とまとめ	
15	保育の現状と課題	保育所の現状と課題

④ 教科書および参考資料等

- 「最新 保育原理—わかりやすく保育の本質に迫る—」（保育出版社）
「幼稚園教育要領」「同 解説」 文部科学省
「保育所保育指針」「同 解説書」厚生労働省
「幼保連携型認定子ども園教育・保育要領」内閣府・文部科学省・厚生労働

⑤ 学生に対する評価

- ・試験、提出物、授業への積極的参加等、総合的に判断する。

科目名	形態	単 位	時間数	必修・選択	担当教員
子ども家庭福祉	講義	2	30	必修	川上知幸（実務教員）

① 授業の到達目標及びテーマ

- ・現代社会における子どもの家庭福祉の意義と歴史の変遷について理解する。
- ・子どもの人権擁護について理解する。
- ・子ども家庭福祉の制度や実施体系等について理解する。
- ・子ども家庭福祉の現状と課題について理解する。
- ・子ども家庭福祉の動向と展望について理解する。

② 授業の概要

現代社会における子どもの家庭福祉の意義と歴史の変遷について学び、子どもの人権擁護について理解する。子ども家庭福祉の制度や実施体系について学び、現状と課題と動向、展望について理解を含め、保育士の役割を伝える。

③ 授業の流れ

1	1. 現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史の変遷 ①子ども家庭福祉の理念と概念
2	②子ども家庭福祉の歴史の変遷③現代社会と子ども家庭福祉
3	2. 子どもの人権擁護 ①子どもの人権擁護の歴史の変遷
4	②児童の権利に関する条約
5	③子どもの人権擁護と現代社会における課題
6	3. 子ども家庭福祉の制度と実施体系 ①子ども家庭福祉の制度と法体系
7	②子ども家庭福祉の実施体系
8	③児童福祉施設④子ども家庭福祉の専門職
9	4. 子ども家庭福祉の現状と課題 ①少子化と地域子育て支援②母子保健と子どもの健全育成
10	③多彩な保育ニーズへの対応④子ども虐待・DVとその防止
11	⑤社会的養護 ⑥障害のある子どもへの対応
12	⑦少年非行等への対応⑧貧困家庭、外国籍の子どもとその家庭への対応
13	5. 子ども家庭福祉の動向と展望 ①次世代育成支援と子ども家庭福祉の推進
14	②地域における連携・協働とネットワーク③諸外国の動向
15	テストとまとめ及び解説

④ 教科書及び参考資料等

「子ども家庭福祉」

⑤ 学生に対する評価

平常点（授業態度、出席状況、提出物）と試験によって総合的に判断する。

科目名	形態	単位	時間数	必修・選択	担当教員
社会福祉	講義	2	30	必修	飯島優子

① 学生の到達目標及びテーマ

- ・現代社会において社会福祉が果たしている役割について説明できる。
- ・社会福祉制度の基本的理念について説明できる。
- ・現行の社会福祉制度の概要について理解する。

② 授業概要

社会とのかかわりの中で個人や家族のおかれた状況を捉え、現代社会における社会福祉の意義、理念を理解する。日本の社会保障および社会福祉制度の概要について学び、社会福祉専門職の一員である保育士に求められている福祉に関する基本的知識を獲得することをめざす。

③ 授業の流れ

1	イントロダクション
2	現代社会における生活問題
3	社会福祉の歴史 1
4	社会福祉の歴史 2
5	社会福祉の法制
6	社会福祉の実施体系
7	社会福祉の施設と専門職
8	社会保障制度
9	子ども家庭福祉の法と制度
10	高齢者福祉の法と制度
11	障害者福祉の法と制度
12	相談援助（ソーシャルワーク）
13	福祉サービスの利用支援と利用者の権利擁護
14	社会福祉の動向と課題
15	テストとまとめ及び解説

④ 教科書及び参考資料等

「みらい 子ども福祉ブックス 社会福祉」 志濃原亜美編（みらい）

⑤ 学生に対する評価

筆記テストおよび平常点によって評価する。

科目名	形態	単位	時間数	必修・選択	担当教員
子ども家庭支援論	講義	2	30	必修	飯島優子

① 授業の到達目標及びテーマ

現代社会において子育て家庭の置かれた社会的状況を理解し、家庭支援の必要性、重要性について認識を深める。家庭支援の意義や原理を学び、その対象についての理解を深め、家庭支援に関わる施策や社会資源について必要な知識を獲得することをめざす。さらに、支援の実践方法について基礎を学ぶ。

② 授業の概要

上記の到達目標を達成するために、選択したテキストに沿って講義を進めると共に、設定したテーマに関してグループ討議を行い、さらに討議内容の発表を実施することで学生の理解を深める。

③ 授業の流れ

1	イントロダクション
2	地域社会の変容と子育て家庭
3	家族と家庭
4	現代における夫婦・親子関係の理解と支援
5	現代における親の理解と支援
6	現代における子育て家庭の就労の理解と支援
7	児童養護の体系と家庭支援
8	子育て支援施策とサービス
9	子育て家庭支援の原理と支援方法
10	保育所入所児童等の子育て家庭への支援
11	地域の子育て家庭への支援
12	子ども虐待への保育者の支援
13	障がいのある子どもを持つ家庭および社会への支援
14	これからの子育て家庭への支援の課題と展望
15	テストとまとめおよび解説

④ 教科書及び参考資料等

「保育と家庭支援 第2版」 上田 衛 編 みらい

⑤ 学生に対する評価

平常点及び筆記試験によって評価する。

科目名	形態	単位	時間数	必修・選択	担当教員
社会的養護 I	講義	2	30	必修	新沼英明

① 授業の到達目標及びテーマ

本講義では、児童の権利・最善の利益並びに社会的養護の体系と現状についての基本を理解した上で、社会的養護施設や家庭養護の援助の実際とそれらに従事する保育者の倫理と職業観を確立することを目的とする。

② 授業の概要

現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷について学習し、社会的養護の基本・制度・実施体系について理解する。児童福祉施設実習等で子ども関わる際の具体的な支援につながる実践力を身につけるとともに、社会的養護の現状と課題について学ぶ。

③ 授業の流れ

1	オリエンテーション・社会的養護の理念と概念
2	社会的養護の歴史の変遷
3	児童家庭福祉の一分野としての社会的養護
4	児童の権利養護と社会的養護
5	社会的養護の制度と法体系
6	社会的養護の仕組みと実施体系
7	家庭養護と施設養護
8	社会的養護の専門職・実施者
9	施設養護の基本原則
10	施設養護の実際
11	施設養護とソーシャルワーク
12	施設等の運営管理の現状と課題
13	倫理の確立
14	被措置児童等の虐待防止の現状と課題
15	社会的養護と地域福祉の現状と課題

④ 教科書及び参考資料等

無し（プリントを配布するので A4 のファイルを用意すること）

⑤ 学生に対する評価

授業の参加意欲（10%）、授業態度（20%）、期末試験（70%）により、総合的に判断します。

科目名	形態	単位	時間数	必修・選択	担当教員
学校・園と社会	講義	2	30	必修	杉浦宏幸（実務教員）

① 授業の到達目標及びテーマ

教育に関する社会的事項、学校と地域との連携、学校安全について基礎的な知識を身につける。社会状況の変化が学校教育への影響と課題について理解する。さらに、学校と地域との連携の意義や協働の在り方について理解し、学校安全の目的や具体的な取組について理解する。

② 授業の概要

本講義は、現代の学校・園教育に関する社会的事項について、基礎的な内容について学ぶとともに、それらに関する課題について学習する。さらに、学校と地域に関すること、学校安全への対応についての基礎的事項について学習する。

③ 授業の流れ

- 第1回：学校・園を巡る近年の状況
- 第2回：近年の状況とその課題
- 第3回：子どもの生活の変化と課題
- 第4回：子どもの指導上の課題
- 第5回：近年の教育施策の動き
- 第6回：県、市町村の特色ある教育施策
- 第7回：諸外国の教育事情
- 第8回：諸外国の教育改革の動向
- 第9回：開かれた学校・園づくりとは
- 第10回：学校評議員制度とその課題
- 第11回：学校と地域との連携の実際
- 第12回：学校安全とは
- 第13回：学校・園の危機管理
- 第14回：学校・園の危機管理の課題と取り組み（危機管理マニュアル）
- 第15回：学習の振り返りと評価（定期試験）

④ 教科書及び参考資料等

「小学校学習指導要領」、「中学校学習指導要領」：文部科学省 授業中に適宜資料を配付する。

幼稚園教育要領」：文部科学省、「保育所保育指針」：厚生労働省、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」：内閣府

⑤ 学生に対する評価

毎時間のワークシートの記述内容（40%）、テスト（60%）を総合的に判断する。

科目名	形態	単位	時間数	必修・選択	担当教員
教育原理	講義	2	30	必修	宇内一文

① 授業の到達目標及びテーマ

1. 教育の意義と目的、教育と子ども家庭福祉との関連性を説明できる。2. 近代教育の思想と歴史を学び、教育の基礎的理念と理論について理解する。3. 現代社会における教育の現状と課題について説明できる。4. 教育の理念と歴史を踏まえて、将来の保育者・教育者として自分なりの教育観を語るができるようになる。

教育の理念や思想と歴史、行政や制度など教育全般について学び、なぜ何のために教育をするのかという教育の理念（教育目的）に関する理解と自覚を深め、自身の教育観を教育学の基本的な用語・概念を使つて的確に表現できる能力の育成を目指す。

② 授業の到達目標及びテーマ

授業は、「教育とは何か」という視点から、教育の意義と目的、近代教育の思想と歴史、教育の理念と理論、日本と諸外国の学校制度と実践、生涯学習社会の理念と実際、教育の現状と課題など教育学全般について幅広く学び、保育者・教育者に求められる専門的知識の基礎を身につけることを目的とする。なお、「教育」「学校」について学生の主体的・対話的で深い学びを実現し、原理的に理解を深め実践的に各自の考えを活かすことができるように、全体的に、アクティブ・ラーニングの手法を用いたワークショップ形式で授業を展開する予定である。

③ 授業の流れ

第1回：授業の概要と授業計画、評価方法等の説明	第9回：現代社会における教育課題と歴史的な背景①若者の学力低下・学級崩壊など
第2回：教育学の諸概念並びに教育の本質及び目標	第10回：現代社会における教育課題と歴史的な背景②いじめ・不登校など
第3回：教育を成り立たせる諸要素とそれらの相互関係 ①子ども像と教育観の変遷	第11回：家庭や子どもに関わる教育の思想
第4回：教育を成り立たせる諸要素とそれらの相互関係 ②教育と子ども家庭福祉：子どもの人権	第12回：学校や学習に関わる教育の思想—生涯学習社会の理念と実際
第5回：教育を成り立たせる諸要素とそれらの相互関係 ②子どもの社会化と教師・学校の役割	第13回：代表的な幼児教育家の思想①ルソー、ペスタロッチ、フレーベルなど
第6回：家族と社会による教育の歴史	第14回：代表的な幼児教育家の思想②モンテッソーリ、デューイなど
第7回：近代教育制度の成立と展開①諸外国	第15回：まとめ・これからあるべき幼児教育について考える
第8回：近代教育制度の成立と展開②日本	

④ 学生に対する評価

業参画度（40%）、最終試験／期末レポート（60%）

授業への取り組み、リアクション・ペーパーなどにより総合的に評価する。

⑤ 教科書及び参考資料など

内海崎貴子編『教職のための教育原理（第2版）』八千代出伊藤潔志編『哲学する保育原理』教育情報出版、2018

文部科学省『幼稚園教育要領』2017年3月告示。厚生労働省『保育所保育指針』2017年3月告示。

内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』2017年3月告示。

科目名	形態	単位	時間数	必修・選択	担当教員
保育者論	講義	2	30	必修	坂部良二（実務教員）

① 授業の到達目標及びテーマ

教職・保育職をめざす意思を明確にし、学修への意欲を高める。教員・保育者の役割・職務を理解し、学び続けることの必要性を理解する。さらに、幼児・児童等に関わる諸課題について理解し、その基礎的な対応を組織（チーム学校運営）として行うことの重要性について理解する。

② 授業の概要

本講義は、教職・保育職の目的と意義を捉え、教師・保育者の役割・身分・含む義務を学習し、めざす教師像・保育者像を明確にする。また、教育・保育を取り巻く現状を学び、その対応についての基礎的な知識を学ぶとともに、組織（チーム学校）として対応することの重要性を学ぶ。

③ 授業の流れ

- 第1回：教職・保育科目履修の動機とめざす教師像・保育者像
 第2回：学校教育・保育の目的と意義
 第3回：学校教育・保育の現状と課題
 第4回：教員・保育者の役割と資質能力
 第5回：教員・保育者の職務内容役割と身分・服務義務
 第6回：教員・保育者の身分と服務
 第7回：最近の幼児・児童・生徒の傾向と組織（チーム学校）としての対応
 第8回：様々な課題とその対応（組織対応を含む）（1）いじめ・不登校・暴力行為
 第9回：様々な課題とその対応（組織対応を含む）（2）学級崩壊・発達障害・外国人
 第10回：学校（園）・家庭・地域社会及び各種機関の役割と連携・協働
 第11回：人権教育の推進
 第12回：様々な教育・保育課題と対応の在り方（1）少子化・国際化・情報化と教育・保育
 第13回：様々な教育・保育課題と対応の在り方（2）高齢化社会・環境問題と教育・保育
 第14回：教員・保育者に求められる資質能力と専門職としてのキャリア形成
 第15回：学習の振り返りと評価（定期試験）

④ 学生に対する評価 毎時間のワークシートの記述内容(40%)、試験(60%)により、総合的に判断する

⑤ 教科書及び参考資料等

授業中に適宜資料を配付する。「教職の意義と教員の職務」 篠田信司著：三省堂、「保育者論の探究」 森上史朗・岸井慶子編：ミネルヴァ書房

科目名	形態	単位	時間数	必修・選択	担当教員
子どもの心身の発達と学習過程	講義	2	30	必修	畔柳守男

① 授業の到達目標及びテーマ

- 1) 幼児、児童及び生徒の心身の発達の概念並びに関連要因を踏まえ、教育における発達理解の意義を理解している
- 2) 乳幼児期から青年期の各時期における運動、言語、認知及び社会性等の特徴を理解している。
- 3) 学習の概念及び形態を理解している。
- 4) 主体的学習を支える動機付け、集団づくり及び学習評価の在り方を発達の特徴と関連付けて理解している。
- 5) 幼児、児童及び生徒の心身の発達を踏まえ、主体的な学習活動を促す支援の基礎となる考え方を理解している。

② 授業の概要

- 1) 幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程並びに特徴を理解する。
- 2) 幼児、児童及び生徒の学習に関する基礎的知識を身に付け、発達を踏まえた学習支援について基礎的な考え方を理解する。

③ 授業の流れ

- 第1回：発達とは何か・・・発達段階 発達課題 臨界期 社会的遮断
- 第2回：発達の原理・原則・・・発達曲線 発達の方向 発達基準
- 第3回：発達の規定要因・・・遺伝・環境 成熟・学習 レディネス
- 第4回：発達の諸理論・・・フロイト エリクソン ピアジェ
- 第5回：発達の特徴1・・・乳児期の身体・運動・心理的発達の特徴と母子関係
- 第6回：発達の特徴2・・・幼児前期の身体・運動・心理的発達の特徴
- 第7回：発達の特徴3・・・幼児前期の心理的発達の特徴と人間関係
- 第8回：発達の特徴4・・・幼児後期の身体・運動・心理的発達の特徴
- 第9回：発達の特徴5・・・幼児後期の心理的発達の特徴と人間関係
- 第10回：発達の特徴6・・・児童期・青年期の身体・運動・心理的発達の特徴と人間関係
- 第11回：学習の理論1 連合説
- 第12回：学習の理論2 認知説 学習の様相
- 第13回：知能・創造性
- 第14回：学習の動機づけ
- 第15回：集団づくり、学習の評価

- ④ 教科書参考資料等「図解 心理学」（福屋武人編著 学術図書出版社）教員が準備する資料で授業を行う。

- ⑤ 学生に対する評価 小テストの集計結果を基準にするが、学習態度等も評価に加える。

科目名	形態	単位	時間数	必修・選択	担当教員
子どもの家庭支援の心理学	講義	2	30	必修	中西正昭（実務教員）

① 授業の到達目標及びテーマ

- ・生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性、発達課題等について理解する。
- ・家族・家庭の意義や機能を理解するとともに、親子関係や家族関係等について発達の観点から理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える観点を習得する。
- ・子育て家庭をめぐる現代の社会的現状と課題について理解する。
- ・子どもの精神保健とその課題について理解する。

② 授業の概要

生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を学び、初期経験の重要性、波立課題等について理解する。家族・家庭の意義や機能について学び、親子関係・家族関係を発達の観点から理解し、子どもと家庭を包括的にとらえる。子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題、子どもの精神保健と課題について学ぶ。

③ 授業の流れ

1	1. 障害発達 ①乳幼児期から学童期前期にかけての発達
2	②学童期前期から青年期にかけての発達
3	③成人期・老年期における発達
4	2. 家族・家庭の理解 ①家族・家庭の意義や機能
5	②親子関係・家族関係の理解
6	③成人・老年期における発達
7	3. 子育て家庭に関する現状と課題について
8	①子育ての経験と親としての育ち
9	②ライフコースと仕事・子育て
10	③多彩な家庭とその理解
11	④特別な配慮を要する家庭
12	4. 子どもの精神保健とその課題について
13	①子どもの生活・生育環境とその影響
14	②子どもの心の健康に関わる問題
15	まとめと説明

④ 教科書及び参考資料等

保育所保育指針解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（フレーベル館）

⑤ 学生に対する評価

定期試験（80%）、レポート（20%）

科目名	形態	単位	時間数	必修・選択	担当教員
子ども理解の援助	演習	2	30	必修	加藤由美（実務教員）

① 授業の到達目標及びテーマ

保育実践において、実態に応じた子ども一人一人の心身の発達や学びを把握することの意義について理解する。

子どもの体験や学びの過程において子どもを理解する上での基本的な考え方を理解する。

子どもを理解するための具体的な方法を理解する。

子どもの理解に基づく保育士の援助や態度の基本について理解する。

② 授業の概要

保育実践において、一人ひとりの子どもの実態に応じた心身の発達や学びを把握することの意義について学ぶ。また、子どもの体験や学びの過程において、子どもを理解する上での基本的な考え方を理解する。

③ 授業の流れ

1	保育における「子ども理解」とは ①保育のはじまりとしての「子ども理解」
2	保育における「子ども理解」とは ②子ども理解を深める
3	子どもを取り巻く環境の理解
4	子ども理解における発達の観点 ①子どもへのまなざし
5	子ども理解における発達の観点 ②発達観
6	子ども理解における保育者の姿勢とカウンセリングマインド ①子ども理解における保育者の姿勢
7	子ども理解における保育者の姿勢とカウンセリングマインド ②カウンセリングマインドに基づく子ども理解
8	保育における観察と記録の実際
9	記録に基づく保育カンファレンス ①
10	記録に基づく保育カンファレンス ②
11	保育におけること集団の関係の理解と援助
12	一人一人の子どもの特別なニーズの理解と援助 ①子どものニーズの理解
13	一人一人の子どもの特別なニーズの理解と援助 ②支え合い育ちあう保育
14	「子ども理解」を深めるための保育共同体
15	子ども理解の方法及び援助についてのまとめと試験

④ 教科書及び参考資料等

新しい保育講座3『子ども理解と援助』 高嶋景子・砂上史子 編著 ミネルヴァ書房

⑤ 学生に対する評価

授業や演習の態度、提出物、試験に基づく総合評価

科目名	形態	単位	時間数	必修・選択	担当教員
子どもの保健	講義	2		必修	高木純子

① 授業の到達目標及びテーマ

- ・子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解し、述べることができる。
- ・子どもの身体的な発育・発達と保険について理解し、述べることができる。
- ・子どもの心身の健康状態とその把握方法について理解し、述べることができる。
- ・子どもの疾病と予防法及び他職種連携・協働での適切な対応方法を述べることができる。

② 授業の概要

子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を学び、身体的・運動・生理機能の発達と保健」について理解できるようにする。また子どもの心身の健康状態とその把握方法について学び、子どもの疾病とその予防方法、他職種間の連携・協働での適切が理解できるようにしていく。

③ 授業の流れ

1	生命の保持と情緒の安定にかかる保健活動の意義と目的
2	健康の概念と健康指標
3	現代社会における子どもの健康に関する現状と課題
4	地域における保健活動と子ども虐待防止
5	身体発育及び運動機能の発達と保健
6	生理機能の発達と保健
7	子どもの健康状態の観察
8	子どもの心身の不調等の早期発見
9	子どもの発育発達の把握と健康診断と評価法
10	保護者との情報共有、家庭との連携
11	子どもの主な疾病の特徴 ① 感染性と呼吸器、消化器の疾病
12	子どもの主な疾病の特徴 ② 先天性の疾病
13	子どもの主な疾病の特徴 ③ 循環器、血液、内分泌の疾病
14	子どもの疾病の予防と適切な対応
15	子どもの成長・発達、疾病と予防方法についてのまとめ

④ 教科書及び参考資料等

「保育者のためのわかりやす子どもの保健」 飯島一誠 日本小児医事出版社（2018）

⑤ 学生に対する評価

定期試験 60% レポート 20% 毎時間の提出物 20%

科目名	形態	単位	時間数	必修・選択	担当教員
子どもの食と栄養	演習	2	60	必修	黒宮 規美子

① 授業の到達目標及びテーマ

- ・栄養学の基礎知識を身につける。
- ・発達段階に応じた栄養や「食」のあり方（献立・食事作り、給食方法等）を理解する。
- ・現代の「食」を取り巻く環境や問題点に着目し、食育の実践に取り組むことができる。

② 授業の概要

本講義は、栄養学の基礎知識を学び、「食」が幼児、小児期において、身体的及び精神的発育・発達に、重要な役割を果たしていることを理解する。また、「食」をとりまく環境の変化の中で、「食」を通して、自ら健康習慣を身につけることができる人材を育てる。

③ 授業の流れ

①子どもの健康と食生活の意義	⑩学童期・思春期の食生活
②食生活の変遷と現状の課題	⑪食育の背景
③栄養に関する基礎知識 1	⑫食育（子どもへのはたらきかけ）
④栄養に関する基礎知識 2	⑬食育演習① 食育媒体作成
⑤栄養に関する基礎知識 3	⑭食育演習② グループ発表
⑥消化・吸収 エネルギー代謝	⑮食育（保護者へのはたらきかけ） 1
⑦演習①自分の食生活チェック	⑯食育（保護者へのはたらきかけ） 2
⑧食事摂取基準と献立作成・調理の基本	⑰食育演習③ 食育だより作成
⑨妊娠（胎児期）・授乳期の食生活	⑱家庭や児童福祉施設における食生活
⑩演習②妊娠期の献立作成	⑲疾病及び体調不良の子どもへの対応
⑪乳児期の食生活	⑳障害及びアレルギーのある子どもへの対応
⑫調理実習① 調乳	㉑食育演習④ 行事食・お楽しみ会の食事
⑬調理実習② 離乳食	㉒調理実習③ 幼児期のお弁当
⑭幼児期の食生活	㉓調理実習④ 間食
⑮前期試験とまとめ	㉔後期試験とまとめ

④ 教科書及び参考資料

「最新子どもの食と栄養」 飯塚 美和子 他 学健書院

⑤ 学生に対する評価

授業態度、出席状況、試験、提出物等により総合的に評価する。

教科目	形態	単位	時間数	必修・選択	担当教員
教育の方法と技術 (情報機器及び教材の活用を含む)	講義	2	30	必修	神本政雄(実務教員)

① 授業の到達目標及びテーマ

これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するための必要な、教育の方法、教育の技術、情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。

② 授業の概要・子供たちに求められる資質・能力を育成するための必要な教育の方法を理解する。

・教育の目的に適した指導技術を理解し、身に付ける
情報機器を活用した効果的な授業や情報活用能力の育成を視野に入れた適切な教材の作成・活用に関する基礎的な能力を身に付ける。

③ 授業の流れ

第1回：教育方法論とは（教育方法の基礎的理論を理解）
 第2回：新指導要領・教育要領改訂の基本的な考え方（資質・能力を育成するための教育方法の在り方を理解）
 第3回：目標と指導と評価の一体化とは（授業・保育を構成する基礎的な要件を理解）
 第4回：教師に求められる学級経営力（学級づくりの基本としての生活教育を理解）
 第5回：教師に求められる授業構想力（基礎的な学習指導理論を理解）
 第6回：教師に求められる授業設計力（目標・内容の視点をふまえた学習指導案を作成）
 第7回：教師に求められる授業展開力（話法・板書など、授業・保育を行なう上での基礎的な技術を理解）
 第8回：教師に求められる授業評価力（学習評価の基礎的な考え方を理解）
 第9回：これからの教育課程の課題1「確かな学力としての言語力」についてのアクティブラーニング
 第10回：これからの教育課程の課題2「伝統と文化の指導について」のアクティブラーニング
 第11回：これからの教育課程の課題3「10の資質・能力の具体化」のアクティブラーニング
 第12回：映像機器を活用した一日の振り返り（興味・関心を高めるための情報機器の活用を工夫）
 第13回：映像ソフトによるコーナー保育の設計（幼児の体験との関連を考慮した教材の作成・提示）
 第14回：コーナー保育への参加と日程調整の活用法（子どもの情報活用能力を育成するための指導法を理解）
 第15回：講義の総括と定期試験、及び学生による授業評価の実施

④ 教科書及び参考資料等

学習指導要領、幼稚園教育要領、授業時に指示する

⑤ 学生に対する評価

提出物・筆記試験等をもとに総合的に判断する。

科目名	形態	単位	時間数	必修・選択	担当教員
幼児の理解	演習	1	30	必修	中西正昭（実務教員）

① 授業の到達目標及びテーマ

幼児理解についての知識を身に付け、考え方や基礎的態度を理解するとともに、幼児理解の方法を具体的に理解する。テーマ：幼児理解の意義と原理及び方法

② 授業の概要

幼児理解は、幼稚園教育のあらゆる営みの基本となるものである。本授業では、幼児の発達や学び、その過程で生じるつまずき、その要因を把握するための原理や対応の方法など演習を通じて学習していく。

③ 授業の流れ

第1回：幼児理解の意義
 第2回：乳児期の発達理解
 第3回：幼児期・学童期の発達理解Ⅰ
 第4回：幼児期・学童期の発達理解Ⅱ
 第5回：幼児の発達とアセスメント
 第6回：幼児理解を深めるための教師のあり方
 第7回：幼児の学びの理解Ⅰ
 第8回：幼児の学びの理解Ⅱ
 第9回：幼児の観察と記録の意義と目的
 第10回：目的に応じた観察法の基礎
 第11回：幼児期における個と集団の関係
 第12回：幼児期における問題行動の理解Ⅰ
 第13回：幼児期における問題行動の理解Ⅱ
 第14回：保護者の要望と親子の関係づくりの支援
 第15回：まとめと復習
 定期試験

④ 教科書及び参考資料等

「子どもの理解と保育・教育相談」(株)みらい
 「幼稚園教育要領」「同 解説」文部科学省、授業中に適宜資料を配付する。

⑤ 学生に対する評価

定期試験（80%）、レポート（20%）

科目名	形態	単位	時間数	必修・選択	担当教員
教育相談	演習	1	30	必修	中西正昭（実務教員）

① 授業の到達目標及びテーマ

現在の子どもを取り巻く環境は、子どもたちの健全な育ちを拒む要因が多くあり、子どもたちが抱える問題も多様化、深刻化し、被虐待児も増加している。講義では、社会的養護 I で学んだ基礎理解をもとに、より深く社会的養護の下にいる人たちへの支援方法、福祉専門職としての保育士の役割を中心に学び、目指すべき社会的養護の方向性について考える。

② 授業の概要

本授業では、幼児・児童及び生徒の個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要なカウンセリング等の基礎的知識や技法など演習を通じて学習していく。

③ 授業の流れ

第1回：保育・教育相談のあり方と今日的課題
 第2回：乳児期の教育相談
 第3回：幼児期・学童期の教育相談
 第4回：カウンセリングの基礎理論
 第5回：カウンセリングの基本事項
 第6回：カウンセリングの技法Ⅰ
 第7回：カウンセリングの技法Ⅱ
 第8回：園・地域における専門家との連携による相談・支援
 第9回：保育・教育相談を介した園内、園外との連携
 第10回：対人関係のトレーニング実践
 第11回：事例研究 子ども同士のいざこざ
 第12回：事例研究 仲間に入れない子ども
 第13回：事例研究 すぐ暴力を振るう子ども
 第14回：事例研究 虐待が疑われる子ども
 第15回：まとめと復習
 定期試験

④ 教科書及び参考資料等

「子どもの理解と保育・教育相談」(株)みらい

「幼稚園教育要領」「同 解説」文部科学省、授業中に適宜資料を配付する。

⑤ 評価方法

定期試験 (80%)、レポート (20%)

科目名	形態	単位	時間数	必修・選択	担当教員
特別支援教育の理解	演習	2	60	必修	永井弘人（実務教員）

① 授業の到達目標及びテーマ

特別の支援を必要とする子どもとの理解と支援方法について学ぶ。

特別支援を必要とする子どもの障害の特性及び心身の発達や、教育課程及び支援の方法を理解する。障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育における計画の作成や援助の具体的な方法について理解し、家庭への支援や関係機関との連携・協働について学ぶ。障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育に関する現状と課題について理解する。

② 授業の概要

本授業では、特別の支援を必要とする子どもの学習上または生活上の困難を理解し、個別の教育的ニーズに対して、他の保育者や関係機関と連携しながら組織的に対応していくための必要な知識や支援方法を学ぶ。また、障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育における計画の作成や援助の具体的な方法について学ぶ。

③ 授業の流れ

<p>第1回：特別支援教育とは</p> <p>第2回：ノーマライゼーションと統合教育、インクルーシブ教育</p> <p>第3回：教育改革と特別支援教育</p> <p>第4回：特別支援教育の制度と構造</p> <p>第5回：障害児の日常生活の指導の実際</p> <p>第6回：障害特性への配慮と自立活動</p> <p>第7回：通級による指導の内容と対象児</p> <p>第8回：学習障害とその支援</p> <p>第9回：注意欠陥/多動性障害とその支援</p> <p>第10回：自閉症スペクトラム障害（高機能自閉症、アスペルガー症候群）とその支援</p> <p>第11回：被虐待児の特徴と特別支援</p> <p>第12回：発達障害と不登園・不登校</p> <p>第13回：特別支援教育の体制整備と地域資源</p> <p>第14回：家庭支援と相談体制</p> <p>第15回：まとめと復習第</p> <p>第16回：＜障害＞の概念と障害児保育の歴史的変遷</p> <p>第17回：障害児のある子どもの地域社会への参加</p>	<p>包容(インクルージョン)及び合理的配慮の理解と障害児保育の基本</p> <p>第18回：肢体不自由児の理解と援助①</p> <p>第19回：肢体不自由児の理解と援助②</p> <p>第20回：知的障害児の理解と援助①</p> <p>第21回：知的障害児の理解と援助②</p> <p>第22回：視聴覚障害・聴覚障害児・言語障害児等の理解と援助</p> <p>第23回：発達障害児の理解と援助①（ADHD－注意欠陥多動性障害、LD－学習障害等）</p> <p>第24回：発達障害児の理解と援助②（PDD広汎性発達障害等）</p> <p>第25回：重症心身障害児、医療的ケア児の理解と援助</p> <p>第26回：その他特別な配慮を要する子どもの理解と援助</p> <p>第27回：指導計画及び個別の支援計画の作成</p> <p>第28回：個々の発達を促がす生活や遊びの環境</p> <p>第29回：子ども同士の関わりと育ち合い</p> <p>第30回：まとめと復習</p>
---	---

④ 教科書及び参考資料

「よくわかる特別支援教育」 湯浅恭正 編 ミネルヴァ書房幼稚園教育要領「同 解説」文部科学省、授業中に適宜資料を配付する。

⑤ 学生に対する評価 定期試験（80%）、レポート（20%）

科目名	形態	単位	時間数	必修・選択	担当教員
保育・教育課程論	講義	2	30	必修	加藤由美（実務教員）

① 授業の到達目標及びテーマ

- ・ 保育の全体的な計画、教育課程の役割・機能・意義について理解する。
- ・ 保育の目標を達成するために必要な保育の全体的な計画、教育課程の編成の基本原理を理解する。
- ・ 乳幼児の発達の特徴を理解した指導計画の作成ができ、教育課程や指導計画を検討することの重要性を理解する。

② 授業の概要

本授業は、「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育領に基つき、子どもの発達過程に応じた保育の計画を具体的に理解し、指導計画の作成について、その意義と方法を学ぶとともに、子ども理解に基づく保育の過程（計画・実践・記録・省察・評価・改善）について、その全体構造を捉え、理解するものである。

③ 授業の流れ

第1回：オリエンテーション 全体的な計画、教育課程とは
第2回：学校教育における教育課程
第3回：保育の基本と計画の考え方① 保育における計画
第4回：保育の基本と計画の考え方② 教育課程の意義
第5回：幼児教育の特質と幼児期に育みたい資質・能力①
第6回：幼児教育の特質と幼児期に育みたい資質・能力② 「幼児期において育みたい資質・能力」と「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の関係性
第7回：幼稚園における教育課程の役割と編成
第8回：保育所における全体的な計画
第9回：幼保連携型認定こども園における教育及び保育の内容ならびに子育ての支援に関する全体的な計画
第10回：長期の指導計画と短期の指導計画の実際① 長期の指導計画の作成
第11回：長期の指導計画と短期の指導計画の実際② 短期の指導計画の作成
第12回：幼児理解に基づいた評価の実施
第13回：カリキュラム・マネジメントの意義と実際
第14回：幼稚園教育要領の改訂・保育所保育指針の改定（訂）の変遷とその背景
第15回：まとめと試験

④ 教科書及び参考資料等

乳幼児教育・保育シリーズ 『教育課程論』 光生館
 幼稚園教育要領解説、保育所保育指針解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（フレーベル館）

⑤ 学生に対する評価方法

試験及び平常点

科目名	形態	単位	時間数	必修・選択	担当教員
保育内容総論	演習	1	30	必修	彦坂美希（実務教員）

① 授業の到達目標及びテーマ

乳幼児期における教育の基本をふまえた子どもの見方・指導の考え方を理解し具体的な事例を挙げて説明できる。

- ・幼児教育と小学校教育との円滑な接続について説明できる。
- ・乳幼児教育における指導計画と幼児理解に基づく評価の考え方を理解し、説明できる。
- ・乳幼児の発達の過程を見通した指導計画の考え方について説明できる。
- ・幼児にとっての行事の意味を理解し、園行事のあり方を説明できる。
- ・幼児の興味関心、発達の実情に応じた具体的な指導の在り方を理解し、総合的に指導する力を付ける。

② 授業の概要

本授業では、幼児教育が園生活全体を通して総合的に指導されるという考え方を理解し、幼児教育の環境を構成し、実践するために必要な知識を身に付ける。特に、具体的な乳幼児の姿と関連付けながら遊びの中でどのような経験をしているかに認め、遊びをとおして育つことを理解するについて学び、5領域のねらい及び内容とのつながりを確認し、遊びをとおして育つことを理解する。

③ 授業の流れ

<p>第1回：保育の基本と保育内容 — 養護と教育が一体となって、生活や遊びをとおして総合的に指導するという考え方を理解する。</p> <p>第2回：遊びや生活に組み込まれた保育内容 — 遊びを分析することで、子どもの姿や遊を見る視点としての領域という考え方を理解する。</p> <p>第3回：幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領における教育及び保—3要領・指針の制度的位置づけとそれぞれの関係について理解する。</p> <p>第4回：3歳未満児の発達と保育内容—3歳未満児にとっての望ましい生活について理解する。</p> <p>第5回：3歳以上児の発達と保育内容 —3歳児以上の発達と幼児期に育みたい資質・能力について理解する</p> <p>第6回：子ども理解に基づく保育の展開—自身の子どもを見る目と子ども観、保育観の関係から保育内容を考える。</p>	<p>第7回：保育記録を書くことの意義と実際 —記録としての基本的な記述の仕方を学ぶ。</p> <p>第8回：保育の計画の考え方—カリキュラム・マネジメントをとらえる視点について理解する</p> <p>第9回：ものや人との関わりを深める環境の構成—連携園の観察を通して、意図的・計画的な環境の構成について学ぶ</p> <p>第10回：短期指導計画の実際① — 模擬保育指導計画案を立案する（個人）</p> <p>第11回：短期指導計画の実際② — 模擬保育指導計画案を立案する（グループ）</p> <p>第12回：短期指導計画の実際③ — 模擬保育指導計画案を立案する（グループ）</p> <p>第13回：模擬保育の実施 — 模擬保育（グループ）を実施し、反省・評価を行う</p> <p>第14回：園行事の考え方と指導—子どもの姿から日常の保育と行事との関係を理解する</p> <p>第15回：特別な配慮を要する子どもへの援助 定期試験</p>
--	--

④ 教科書・参考資料等 「乳幼児教育・保育シリーズ 保育内容総論」 光生館

「幼稚園教育要領」「同 解説」、「保育所保育指針」「同 解説書」：厚生労働省、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」「同 解説」：内閣府・文部科学省・厚生労働省

⑤ 学生に対する評価 授業態度（20%）、提出物（20%）、試験（60%）

科目名	形態	単位	時間数	必修・選択	担当教員
健康指導法 I	演習	1	30	必修	福入ゆり（実務教員）

① 授業の到達目標及びテーマ

子どもの健康をめぐる現状と課題について学び、健やかな心と体、情緒、社会性の発達を支える健康支援者としての保育者の役割を認識し、子ども自らが主体的で対話的な充実した生活と遊びの中で、健康で安全な生活を作り出す力を養っていく指導法を身につける。

② 授業の概要

子どもの健康をめぐる現状と課題について学ぶと共に、幼稚園教育要領・保育所保育おける領域「健康」のねらいと内容について理解する。また乳幼児期の健やかな心と体、情緒、社会性の発達について学び、子どもの発達を支え促す保育者の役割を認識する。保育の実際・環境構成・援助のポイント・指導計画の立案など、具体的事例を用いて実践的に学ぶ。さらにグループで戸外遊びの研究を行い、遊びの知識を増やし指導計画を作成し発表し学び合う。

③ 授業の流れ

- 第1回：オリエンテーション「子どもの健康をめぐる現状と課題」（情報機器の活用）
- 第2回：領域「健康」のねらいと内容
- 第3回：乳幼児の身体の発達と保育者の役割
- 第4回：乳幼児の情緒・社会性の発達と保育者の役割（事例から学ぶ）
- 第5回：基本的生活習慣の指導法1（事例から学ぶ）
- 第6回：基本的生活習慣の指導法2（事例から学ぶ）
- 第7回：食育指導法(情報機器の活用)
- 第8回：戸外遊びの研究1（グループワーク）
- 第9回：指導計画の作成と指導の実際（環境構成・援助）（グループワーク）
- 第10回：戸外遊びの指導案作成(情報機器を活用して作成）（グループワーク）
- 第11回：戸外遊びの研究2(情報機器を活用して発表）発表（グループワーク）
- 第12回：乳幼児期の病気と怪我、その対応について
- 第13回：安全教育とその指導法
- 第14回：健康支援者としての保育者の役割と保護者啓発
- 第15回：保護者へのおたより作成（これまでの学びを生かして）

④ 教科書及び参考資料等

保育内容「健康」 河邊貴子・柴崎正行・杉原隆 ミネルヴァ書房
『事例で学ぶ保育内容 領域健康』 無藤隆・倉持清美 萌文書林
幼稚園教育要領・同解説、保育所保育指針・同解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領・同解説（フレーベル館）

⑤ 学生に対する評価

授業態度（20％）研究発表（60％）提出物等（20％）によって総合的に評価する。

科目名	形態	単位	時間数	必修・選択	担当教員
人間関係指導法 I	演習	1	30	必修	飯島優子

① 授業の到達目標及びテーマ

幼稚園教育要領および保育所保育指針に示されている領域「人間関係」のねらい及び内容を理解する。幼児の発達特性や幼児を取り巻く社会環境との関わりを踏まえた上で幼児期に育むことが望ましい能力を把握し、それを育むための方法を身に付ける。

② 授業の概要

幼児の社会化や自己概念形成などの基礎知識を学び、それをもとに領域「人間関係」の方向目標、ねらい及び内容の理解を深める。その上で乳幼児期に周りの人々との関係がどのように育っていくのかを知り、事例検討やグループ討議、模擬保育を通してその育ちを保育者がどう支えていくのかについて考え、指導案作成に活かすことができるようにする。

③ 授業の流れ

<p>授業計画</p> <p>第1回：保育内容「人間関係」について</p> <p>第2回：乳幼児期の人間関係とは</p> <p>第3回：現代社会における幼児期の社会化</p> <p>第4回：幼児期における自己理解と自己概念の形成</p> <p>第5回：領域「人間関係」の理解</p> <p>第6回：領域「人間関係」の変遷</p> <p>第7回：0～2歳児の人間関係</p> <p>第8回：3歳児の人間関係－保育者が居場所</p> <p>第9回：4歳児の人間関係－自己主張と自己抑制</p> <p>第10回：5歳児の人間関係－充実した園生活</p> <p>第11回：協同性の育ちと個の育ち</p> <p>第12回：保育者と子どもの人間関係</p> <p>第13回：人間関係を育むための指導案作成</p> <p>第14回：指導案に基づく模擬保育・ロールプレイ</p> <p>第15回：学習の振り返りとまとめ</p>

④ 教科書及び参考書等

「体験する・調べる・考える 領域 人間関係」 萌文書林

幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領

⑤ 学生に対する評価

筆記試験、提出物、平常点

科目名	形態	単位	時間数	必修・選択	担当教員
環境指導法 I	演習	1	30	必修	彦坂美希（実務教員）

① 授業の到達目標及びテーマ

幼稚園教育要領や保育所保育指針に示されている乳幼児期の教育・保育の基本を踏まえ、領域「環境」のねらい及び内容を理解する。乳幼児期に出会うことが望ましいとされる環境を構成し、乳幼児がその環境と出会い主体的にかかわることを支えていくための方法を身に付ける。

② 授業の概要

乳幼児が好奇心や探究心をもって周囲の環境にかかわり、生活に取り入れていくことができるようにするため、保育者としてどのように環境を理解し、保育を計画し展開していけばよいのかを学ぶ。幼稚園教育要領や保育所保育指針等から学ぶとともに、乳幼児が実際に環境に働きかけるのと同じが集うを学生自身が体験することやグループで話し合っ発表することを通して理解を深める。また授業のまとめとして模擬指導計画案を作成し、グループごとに模擬授業を実践することを通して、保育の一連の流れに沿って領域「環境」に関わる保育の展開の仕方を学ぶ。

③ 授業の流れ

第1回：乳幼児教育の基本と保育内容「環境」—保育内容の基本的構造と領域「環境」のねらい、内容について
第2回：子どもの発達と領域「環境」—幼児期にふさわしい環境と環境構成の実際
第3回：領域「環境」のねらい、内容について
第4回：自然に親しみ、植物に触れる保育の実際
第5回：物事の法則性に気付く保育の実際
第6回：自然を取り入れて遊ぶ保育の実際
第7回：生命の営みに触れる保育の実際
第8回：身の回りにある物に愛着をもつ保育の実際
第9回：科学を体感する保育の実際
第10回：数量・図形に親しむ保育、標識や文字の必要感を育む保育の実際
第11回：情報や地域とのかかわりを意識した保育の実際
第12回：領域「環境」と幼児の終わりまでに育ててほしい姿との関連
第13回：身近な素材や自然物を用いた保育の実際（指導計画案の作成）
第14回：グループごとの模擬保育の実施
第15回：模擬保育の振り返り、試験

④ 教科書及び参考資料等

⑤ 学生に対する評価

授業態度、提出物、試験により、総合的に評価する。

科目名	形態	単位	時間数	必修・選択	担当教員
言葉指導法 I	演習	1	30	必修	和田直子（実務教員）

① 授業の到達目標及び

授業の到達目標及びテーマ

- ・子どもが言葉を習得していく道筋を、発達と併せて理論的に理解し説明することができる。
- ・子どもの発達に伴う保育者のかかわりや、子どもが豊かな言葉を獲得するための環境と保育方について理解し、説明することができる。
- ・保育教材の製作・発表を通して、子どもの理解を踏まえた実践力を身に付ける。

② 授業の概要

テキストをもとに、授業内容に応じて絵本・紙芝居、手遊び歌遊びなど豊かな言葉を育むための教材を取り入れながら、理論と実践の両面から学ぶ。

③ 授業の流れ

- 第1回：言葉指導法 I の授業のねらいについて
 第2回：領域「言葉」の「ねらい」と「内容」と「評価」
 第3回：乳幼児期における言葉の発達（1）0歳代
 第4回：乳幼児期における言葉の発達（2）1～2歳代
 第5回：乳幼児期における言葉の発達（3）3～4歳代
 第6回：乳幼児期における言葉の発達（4）5～6歳代
 第7回：言葉の発達を促す援助
 第8回：現代社会における言葉の発達の課題
 第9回：言葉の発達を促す保育者の役割
 第10回：保育の場を想定した言葉を育む教材（情報機器の活用）（1）絵本・紙芝居
 第11回：保育の場を想定した言葉を育む教材（情報機器の活用）（2）手遊び・歌遊び
 第12回：保育の場を想定した言葉を育む教材（情報機器の活用）（3）指人形・劇遊び
 第13回：保育の場を想定した言葉を育む教材（情報機器の活用）（4）発表
 第14回：保育の場を想定した言葉を育む教材（情報機器の活用）（5）発表
 第15回：今後の課題とまとめ

④ 教科書及び参考資料等

新時代の保育双書 保育内容「ことば」赤羽根有里子・鈴木穂波編

幼稚園教育要領・同解説、保育所保育指針・同解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領・同解説

参考資料は授業中に適宜資料を配布する。

⑤ 学生に対する評価

試験（80%）保育の場を想定した発表（20%）

科目名	形態	単位	時間数	必修・選択	担当教員
表現指導法 I	演習	1	30	必修	加藤（実務教員）・木村

① 授業の到達目標及びテーマ

領域「表現」のねらい及び内容を理解し、子どもの発達や学びの過程を踏まえ、領域「表現」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身につける。

② 授業の概要

本授業は、領域内容の各領域を総合的に捉え表現活動を中心に乳幼児の実態に応じた保育内容の展開や指導法を学ぶ。身体の動きや五感、音やリズム、ものの色や形質感など様々な表現のツールを用いて表現活動の特徴や面白さを確認し応用や発展を考え実践を重ね、総合的な活動を構想し、計画、指導、実践する力を身につける。

③ 授業の流れ

授業計画

第1回：領域「表現」のねらいと内容（加藤）

第2回：子どもの表現が広がる指導方法（木村）

第3回：幼児期の表現活動と、小学校の様々な教科と学びの連続性（加藤）

第4回：表現活動の実践例からの動向や課題と保育構想の向上（加藤）

第5回：インクルーシブ保育における表現活動や遊びの可能性（加藤）

第6回：五感を使った総合的な表現活動（木村）

第7回：手足、身体を用いた総合的な表現活動（木村）

第8回：身近な素材を用いた総合的な表現活動の実践（木村）

第9回：身近な素材を用いた総合的な表現活動の実践（木村）

第10回：表現活動や遊びを広げるための言葉掛けや教材の提示方法、環境を踏まえた教材研究

（加藤）

第11回：表現における情報機器及び教材の活用方法（木村）

第12回：総合的な表現活動の実践と指導案の作成（加藤）

第13回：総合的な表現活動の実践とグループで作成した指導案（加藤）

第14回：グループによる表現活動の指導案実践とその振り返りと改善（木村）

第15回：これまでに学んだ表現活動の実践を通した保育の現場における表現活動の課題
（加藤・木村）

④ 教科書及び参考資料

「表現指導法」ミネルヴァ書房

幼稚園教育要領「同 解説」、「小学校学習指導要領」：文部科学省、「保育所保育指針」「同 解説書」：厚生労働省、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」「同 解説」：内閣府・文部科学省・厚生労働省

⑤ 学生に対する評価

毎時間のワークシートの記述内容、テストにより、総合的に判断する。

科目名	形態	単位	時間数	必修・選択	担当教員
健康指導法Ⅱ	演習	1	30	選択必修	福入ゆり（実務教員）

① 授業の到達目標及びテーマ

領域「健康」に関わる主な5つのテーマ「心身、情緒、社会性の発達」、「生活習慣の自立」、「運動遊びの充実」、「病気や怪我の予防」、「安全教育」それぞれについて、健康支援者としての保育者の役割について説明できる。さらに各テーマについて、子ども自らが健康で安全な生活を作り出していくための指導法について研究し、具体的な場面を想定した指導計画を作成することが出来る。

② 授業の概要

健康指導法Ⅰで学んだことを生かし、領域「健康」に関わる「心身、情緒、社会性の発達」、「生活習慣の自立」、「運動遊びの充実」、「病気や怪我の予防」、「安全教育」5つのテーマについて、子どもが主体的で対話的な充実した生活と遊びの中で健康で安全な生活を作り出す力を養う指導法を研究し、具体的な場面を想定した指導案を作成し、発表し学び合い、考えをまとめる。必要に応じて隣接する滝子幼稚園、たきこ幼稚園へ出向き、実際の子どもの姿を捉えたり、保育者に尋ねたりして研究を進めていく。

③ 授業の流れ

第1回：オリエンテーション「上述の5つの中から、自分の研究テーマを選び、決定する」
第2回：テーマに沿って自主学習を進める①研究テーマについて幼稚園教育要領の内容を詳しく理解する
第3回：テーマに沿って自主学習を進める② 子ども経験し身につけていく内容について学習する。
第4回：テーマに沿って自主学習を進める③ 子どもが主体的に健康で安全な生活を作り出す力について学習する。
第5回：テーマに沿って自主学習を進める④(情報機器を活用して研究) 健康で安全な生活を作り出す力を養う指導法を研究する。
第6回：テーマに沿って自主学習を進める⑤(情報機器を活用して研究) 健康で安全な生活を作り出す力を養う指導法を研究する。
第7回：テーマに沿って自主学習を進める⑥(情報機器を活用して研究) 健康で安全な生活を作り出す力を養う指導法を研究する。
第8回：実際の場面を想定した指導計画案を作成する①(情報機器を活用して作成) ねらい及び内容を考える。
第9回：実際の場面を想定した指導計画案を作成する②(情報機器を活用して作成) 予想される活動及び留意事項を考える。
第10回：実際の場面を想定した指導計画案を作成する③(情報機器を活用して作成) 指導計画案を作成する。
第11回：「研究発表」学び合い①(情報機器を活用して発表)
第12回：「研究発表」学び合い②(情報機器を活用して発表)
第13回：「研究発表」学び合い③(情報機器を活用して発表)
第14回：模擬保育から具体的に保育を構想する方法を理解する。
第15回：「研究」、「発表」、「学び合い」を通じて、健康指導法について自分の考えをまとめる。

④ 教科書及び参考資料等

『保育内容「健康」』 河邊貴子・柴崎正行・杉原隆 ミネルヴァ書房
『事例で学ぶ保育内容 領域健康』 無藤隆・倉持清美 萌文書林
幼稚園教育要領・同解説、保育所保育指針・同解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領・同解説（フレーベル館）

⑤ 学生に対する評価 授業態度（20%）、研究発表（60%）、提出物等（20%）によって総合的に評価する。

科目名	形態	単位	時間数	必修・選択	担当教員
人間関係指導法Ⅱ	演習	1	30	必修	飯島優子

① 授業の到達目標及びテーマ

幼稚園教育要領および保育所保育指針に示されている領域「人間関係」のねらい及び内について、他の領域との関連性を念頭に置いた上で、理解を深める。幼児が様々な体験をする中で、人と関わる力を身に付けられる保育を考え、実践する方法について学びを深める。

② 授業の概要

幼児教育において自立心と協同性をどう育むか、幼児が集団の中での体験を通して身に付けていくために必要となる保育者の支援方法について学ぶ。幼児を取り巻く人間関係の一員である保育者自身が自分自身を見つめ、自らの影響力を自覚する。事例検討や模擬保育を通して、幼児一人ひとりがその特性に応じて人と関わる力を養うために、保育者が計画的に関わる方法を身に付ける。

③ 授業の流れ

第1回：保育者の役割

第2回：自分自身を知る：保育者の自己覚知

第3回：保育者と子どもの関係 ①子どもとの信頼関係を築く

第4回：保育者と子どもの関係 ②子ども同士の関係

第5回：保育者と子どもの関係 ③子どもの人間関係の広がりや深まり

第6回：保育者と子どもの関係 ④集団の中の個人

第7回：保育者と子どもの関係 ⑤一人ひとりの個性に対応した指導

第8回：保育者と子どもの関係 ⑥一人ひとりの発達に応じた指導

第9回：幼児の自立心を育むための関わり

第10回：幼児の個と協同性を育むための関わり

第11回：人間関係におけるルールを身に付けるための関わり

第12回：人間関係を形成する力をつけるための関わり

第13回：保護者との人間関係

第14回：地域の多様な人々との人間関係

第15回：まとめとテストおよび解説

④ 参考書・参考資料等：

幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領

⑤ 学生に対する評価：

筆記試験、提出物、平常点

科目名	形態	単 位	時間数	必修・選択	担当教員
環境指導法Ⅱ	演習	1	30	必修	彦坂美希（実務教員）

① 授業の到達目標及びテーマ

乳幼児期の教育・保育の基本、幼稚園教育要領・保育所保育指針等の領域「環境」に関するねらい及び内容についての理解を深める。学生自ら主体的に乳幼児にふさわしい環境を模索する態度をもち、乳幼児期にふさわしい環境を構成するために必要な知識・技能、態度を身に付ける。

② 授業の概要

幼稚園教育要領、保育所保育指針等における領域「環境」のねらい及び内容について深く理解し、領域「環境」に関わる保育に関する教材研究を行い、体験を通して教材に対する知識理解を深めると共に、保育への活用することができる力を養う。また、現代の乳幼児を取り巻く様々な環境についてグループで話し合っ発表することで、自分なりの考えを持つことができるようにする。

③ 授業のながれ

第 1 回：保育における環境 —保育の基本「環境をとおして」行うこと、領域「環境」のねらい及び内容
第 2 回：ものや道具に関わる環境教育
第 3 回：教材研究①
第 4 回：自然にかかわる環境教育
第 5 回：教材研究②
第 6 回：模擬指導計画案の作成
第 7 回：模擬指導の実施と振り返り
第 8 回：地域文化に関わる環境教育
第 9 回：教材研究③
第10回：飼育・栽培にかかわる環境教育
第11回：教材研究④
第12回：時間に関わる環境教育
第13回：現代社会における環境の現状と課題
第14回：保育における情報機器の活用
第15回：まとめと試験

④ 教科書及び参考資料等

「体験する・調べる・考える 領域『環境』」（萌文書林）

「幼稚園教育要領」「同 解説」、「保育所保育指針」「同 解説書」：厚生労働省、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」「同 解説」：内閣府・文部科学省・厚生労働省

⑤ 学生に対する評価

授業態度、提出物、試験により、総合的に評価する。

科目名	形態	単 位	時間数	必修・選択	担当教員
言葉指導法Ⅱ	演習	1	30	必修	和田直子（実務教員）

① 授業の到達目標及びテーマ

子どもの発達や学びの過程を理解し、領域「言葉」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身に付ける。

② 授業の概要

本授業は、領域「言葉」のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて解を深める。また、子どもの発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過を踏まえ具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身につけていく。

③ 授業の流れ

- 第1回：子どもの心情、認識、思考及び動き等を視野に入れた保育構想の重要性
- 第2回：子どもの言葉の発達過程と言葉の獲得
- 第3回：言葉の獲得する前の非言語的コミュニケーションの重要性
- 第4回：領域「言葉」の特性及び子どもの体験との関係を考慮した情報機器及び教材の活用
- 第5回：聞く・話す・伝えるなど相互に伝え合う過程などを通しての保育者援助のあり方
- 第6回：子どもの生活の中における文字の有用性や必要性
- 第7回：オノマトペや動きを誘発することばの具体例
- 第8回：言葉に遅れのある子どもや障害のある子どもへの支援について
- 第9回：指導案の構造を理解し、具体的な保育を想定した指導案の作成①（グループで話し合う）
- 第10回：指導案の構造を理解し、具体的な保育を想定した指導案の作成②
- 第11回：指導案の構造を理解し、具体的な保育を想定した指導案の作成③
- 第12回：模擬保育とその振り返り
- 第13回：子どもと異文化（ことばと表現）
- 第14回：領域「言葉」の特性に応じた現代的課題や保育実践の動向
- 第15回：まとめと振り返り

④ 新時代の保育双書 保育内容「言葉」赤羽根友里子・鈴木穂波編

「幼稚園教育要領解説」文部科学省、「保育所保育指針解説書」：厚生労働省

「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」：内閣府・文部科学省・厚生労働省

⑤ 学生に対する評価

試験（80％） 保育の場を想定した発表（20％）

科目名	形態	単位	時間数	必修・選択	担当教員
表現指導法Ⅱ	演習	1	30	必修	浦野忍・荻田安里

① 授業の到達目標及びテーマ

- ・乳幼児期に育みたい資質・能力を理解し、幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型こども園教育・保育要領に示されたねらい及び内容について「表現」と関連させて理解を深める。
- ・子どもの発達に即し、具体的な指導場面を想定して保育を構成する方法を身に付けている。

② 授業の概要

乳幼児期に育みたい資質・能力を理解し、幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型こども園教育・保育要領に示されたねらい及び内容について表現と関連させて理解を深め、幼児の発達に即し、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて、具体的な指導場面を想定して保育を構成する方法を身に付ける。

③ 授業の流れ

第1回：領域「表現」のねらいと内容
第2回：表現活動において育みたい資質・能力について
第3回：子どもの表現活動における評価方法
第4回：子どもが経験し、身に付けていく表現の内容と指導上の留意点について
第5回：幼児期の表現活動と、小学校の様々な教科との学びの連続性について
第6回：インクルーシブ保育における表現活動について
第7回：音楽表現における保育実践の動向および保育構想について
第8回：豊かな感性を育み、表現を引き出すための言葉がけや指導場面での活用方法
第9回：豊かな感性を育む音環境の構成について
第10回：表現活動における情報機器および教材の活用方法
第11回：教材研究を通して指導案作成の構造を理解するとともに音楽的なねらいについて考える
第12回：モデル指導案に基づいた保育実践を通して保育者の援助について考える
第13回：3歳未満児の音楽遊びについての指導案を作成して模擬保育を行い、その振り返りを通して保育の改善について考える
第14回：3歳～5歳児の音楽表現についての指導案を作成して模擬保育を行い、その振り返りを通して保育の改善について考える
第15回：ドキュメンテーションやポートフォリオ等の作成を通して保育の振り返り、子どもの心情や思考について理解を深め保育構想の向上に取り組む

④ 教科書及び参考資料等

「幼稚園教育要領」「同 解説」、「小学校学習指導要領」：文部科学省、「保育所保育指針」「同 解説書」：厚生労働省、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」「同 解説」：内閣府・文部科学省・厚生労働省

⑤ 学生に対する評価

全授業を通じて、学習内容の様子や気づきをポートフォリオにまとめ、学生自身の学びが可視化されたものを中心に、学びの過程を評価する（70%）。その上で最終レポートで学びの成果を評価する。

科目名	形態	単位	時間数	必修・選択	担当教員
子どもと健康	演習	1	30	必修	福入ゆり(実務教員)

① 授業の到達目標及びテーマ

乳幼児の健康の意義、心と体、運動発達等の健康課題を理解している。身体諸機能の発達過程とそれに伴う生活習慣の形成、安全な生活、病気や怪我の予防等について基本的な考え方を身に付けている。さらに乳幼児期の運動発達の特徴を知り、その発達を支え促していく運動や遊びの必要性と具体的な身体活動の在り方、援助や配慮について理解している。子どもの健康を支える健康指導者としての保育者の役割について説明できる。

② 授業の概要

子どもを取り巻く環境から子どもの健康と課題について考える。身体諸機能の発達、情緒、社会性の発達について学び、生活習慣の形成過程について理解すると共に、それを支え導く保育者の役割や方法について事例から学ぶ。さらに、子どもを健康に育てる遊びの重要性や、様々な遊びの持つ魅力、教育的な意図、可能性について知る。さらに病気や怪我の対応、安全教育について基本的な知識を身に付ける。

③ 授業の流れ

- 第1回：オリエンテーション「子どもの健康とは」（グループワーク）
- 第2回：子どもの身体、身体諸機能の発達（視聴覚教材使用予定）
- 第3回：子どもの心、情緒、社会性の発達と保育者の援助 乳児期（事例から学ぶ）
- 第4回：子どもの心、情調、社会性の発達と保育者の援助 幼児期（事例から学ぶ）
- 第5回：領域「健康」のねらい、内容
- 第6回：基本的な生活習慣 食事・排泄（事例から学ぶ）
- 第7回：基本的な生活習慣 睡眠・清潔・衣生活（事例から学ぶ）
- 第8回：社会的な生活習慣 挨拶・片付け・掃除・整理整頓・当番活動・異年齢交流(事例から学ぶ)
- 第9回：子どもの遊びと健康「子どもにとって遊びとは」（グループワーク）
- 第10回：子どもの遊びと健康「運動遊びとその指導」（視聴覚教材使用予定）
- 第11回：子どもの遊びと健康「様々な遊びと子どもに育みたい力」（グループワーク）
- 第12回：子どもの病気について（グループワーク）
- 第13回：子どもの怪我とその対応について
- 第14回：安全教育と年間指導計画
- 第15回：健康支援者としての保育者の役割についてまとめ（個人ワーク）

④ 教科書及び参考資料等

保育者をめざすあなたへ「子どもの健康」勝木洋子 みらい

⑤ 学生に対する評価

授業態度（80%）、提出物等（20%）によって評価する。

科目名	形態	単位	時間数	必修・選択	担当教員
子どもと人間関係	演習	1	30	選択必修	飯島優子

① 授業の到達目標及びテーマ

現代社会における人間関係、特に幼児を取り巻く人間関係の特徴や、その社会的背景を理解する。社会の中に生きる人間という観点から、領域「人間関係」に求められている幼児期の課題を、幼児の発達と関連させて理解し、その中で果たすべき保育者の役割を知る。

② 授業の概要

幼児を取り巻く人間関係を理解するために、近代以降の家族や地域の変容の基本について学び

、大きな歴史的な文脈の中で現代社会の人間関係を考える。人間関係が希薄になったといわれる現代社会において、幼児がどのようにして人と関わる力を養うか、それを保育者がどう支援するか、事例検討等を通して学ぶ。学生自らの人間関係を振り返り、学生自身の人と関わる力と幼児支援の関係についても学びを深める。

③ 授業の流れ

- 第1回：現代社会における人間関係
- 第2回：近代化の進展に伴う社会変化と幼児
- 第3回：家族の変容と幼児
- 第4回：地域社会の変容と幼児
- 第5回：幼児の人間関係に関わる現代的課題
- 第6回：幼児の社会化とその担い手
- 第7回：乳児期における人と関わる力の発達
- 第8回：幼児期における人と関わる力の発達
- 第9回：自立心と協同性の育ち
- 第10回：園生活・社会生活の規範
- 第11回：現代社会で必要とされる人と関わる力
- 第12回：人と関わる力ー幼児 vs. 成人
- 第13回：保育者の自己覚知
- 第14回：幼児を取り巻く人間関係における保育者の役割
- 第15回：まとめとテストおよび解説

④ 教科書及び参考資料等

「体験する・調べる・考える 領域『人間関係』 (萌文書林)

「幼稚園教育要領」「同 解説」、「保育所保育指針」「同 解説書」：厚生労働省、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」「同 解説」：内閣府・文部科学省・厚生労働省

⑤ 学生に対する評価

筆記試験、提出物、平常点。

科目名	形態	単位	時間数	必修・選択	担当教員
子どもと環境	演習	1	30	必修	彦坂美希（実務教員）

① 授業の到達目標及びテーマ

現代の乳幼児を取り巻く環境の現代的特徴及び課題について、乳幼児の発達や保育の基本などの専門的な知識や概念に基づいて説明することができる。領域「環境」に関する様々な事物へのかかわりの発達や意義について説明することができる。

② 授業の概要

領域「環境」に関わる具体的な活動を体験することを通して、幼児がどのように周囲の環境に関わっているのかを推察し、グループで話し合い、発表しある。また、そのかかわりが乳幼児の身体的、認知的発達によってどのように変化するのかを学ぶことで、実践と理論を結び付けて理解を深める。また、幼児教育から小学校教育への生活と学びの連続性について、各授業内容と関連させてその都度取り上げることでカリキュラムマネジメントの視点をもつことができるようにする。

③ 授業の流れ

第1回：子どもの育ちと環境
 第2回：子どもにとっての環境
 第3回：現代の乳幼児を取り巻く環境の現代的特徴と課題
 第4回：乳幼児期の認知的発達
 第5回：環境構成の両義性—子どもの姿から環境を構成する—①
 第6回：環境構成の両義性—子どもの姿から環境を構成する—②
 第7回：乳幼児の発達と物理的、数量・図形との関わり①
 第8回：乳幼児の発達と物理的、数量・図形との関わり②
 第9回：乳幼児の発達と生物・自然との関わり①
 第10回：乳幼児の発達と生物・自然との関わり②第11回：乳幼児の発達と標識・文字との関わり①
 第12回：乳幼児の発達と標識・文字との関わり②
 第13回：乳幼児の発達と情報・施設との関わり①
 第14回：乳幼児の発達と情報・施設との関わり②
 第15回：幼児教育から小学校教育へ生活と学びの連続性と円滑な接続
 定期試験

④ 教科書及び参考資料等

幼稚園教育要領「同 解説」、「保育所保育指針」同 解説書：厚生労働省、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」同 解説：内閣府・文部科学省・厚生労働省

⑤ 学生に対する評価

授業態度、各回の小課題、提出物により、総合的に評価する。

科目名	形態	単位	時間数	必修・選択	担当教員
子どもと言葉	演習	1	30	必修	和田直子（実務教員）

① 授業の到達目標及びテーマ

言葉のもつ意義と機能について理解し、言葉に対する感覚を豊かにする実践につて基礎的な知識を身につける。また、子どもの発達における児童文化財（絵本・物語・紙芝居等）の意義を理解し、実践的な知識を身につける。

② 授業の概要

本授業は、領域「言葉」の指導の基礎となる、子どもが豊かになる言葉や表現を身につけ、想像する楽しさを広げるために必要な専門事項に関する知識を身に知ける。また、「言葉」の意義と機能について理解し、子どもの言葉を育て、言葉に対する感覚を豊かにする教材や実践に関する知識を身につける。

③ 授業の流れ

第1回：人間にとっての言葉の意義やと機能
第2回：子どもの言葉の発達過程
第3回：「言葉」に対する感覚について① 言葉の美しさ
第4回：「言葉」に対する感覚について② 言葉の楽しさ
第5回：言葉遊びのいろいろ
第6回：言葉遊びと保育への取り入れ方
第7回：子どもと楽しむ「言葉遊び」子ども遊びを考える
第8回：子どもの発話の背景についてグループで考える。
第9回：子どもの発話の背景から、乳児にとって言葉のもつ意義や機能を考える
第10回：言葉の楽しさや美しさに気付き、言葉を豊かにする実践① 子どもの発達と合わせて考える
第11回：言葉の楽しさや美しさに気付き、言葉を豊かにする実践② 子どもの発達と合わせて考える
第12回：言葉を育て、想像する楽しさを広げる児童文化財を用いた実践① 種類や歴史
第13回：言葉を育て、想像する楽しさを広げる児童文化財を用いた実践② 保育への取り入れ方
第14回：言葉を育て、想像する楽しさを広げる児童文化財を用いた実践③ 絵本を読む喪所保育
第15回：まとめと今後の課題

④ 科書及び参考資料等

新時代の保育双書 保育内容「言葉」赤羽根友里子・鈴木穂波編
幼稚園教育要領解説 文部科学省、「保育所保育指針解説書」：厚生労働省

⑤ 学生に対する評価

試験（80%）保育の場を想定した発表（20%）

科目名	形態	単位	時間数	必修・選択	担当教員
子どもと表現	演習	1	30	必修	木村節治 浦野忍 荻田安里

① 授業の到達目標及びテーマ

子どもの表現の姿やその発達を理解し、身体・造形・音楽表現などの様々な表現の基礎的な知識・技能を学ぶことを通して、子どもの表現を支えるための感性を豊かにする。

② 授業の概要

本授業は、領域「表現」の指導に関する、子どもの表現の姿やその発達及びそれを促す要因、乳幼児の感性や創造性を豊かにする様々な表現遊びや環境の構成などについての専門的事項について実践的に学び、乳幼児期の表現活動を支援するための知識・技能・表現力を身に付ける

③ 授業の流れ

第1回：領域「表現」のねらいと内容 について<表現との出会い、表現とは何か> (木村)
第2回：身近なものとの触れ合い<自然やその素材の特性とイメージの発展 > (荻田)
第3回：素材との触れ合い① 身体表現の体験と子どもの表現活動に展開する可能性 (浦野)
第4回：素材との触れ合い② 造形表現の体験と子どもの表現活動に展開する可能性 (木村)
第5回：素材との触れ合い③ 音楽表現の体験と子どもの表現活動に展開する可能性 (荻田)
第6回：生活と感性① 多感覚性と心の動き・身体での表現・イメージの表れ (浦野)
第7回：生活と感性② 多感覚性と心の動き・造形での表現・イメージの表れ (木村)
第8回：生活と感性③ 多感覚性と心の動き・音楽での表現・イメージの表れ (荻田)
第9回：コミュニケーションとしての表現活動<表現の生成する過程の分析的に捉える、表現の楽しさを生み出す要因の分析> (浦野)
第10回：子どもの表現<表現行為の受け止め・共感、発達・環境からの読み取り> (木村)
第11回：文化と子どもの表現活動 ①文化的な劇遊び・グループワークとして再構成・発表(木村)
第12回：文化と子どもの表現活動 ②文化的な劇遊び・グループワークとして再構成・発表(浦野)
第13回：文化と子どもの表現活動 ③文化的な劇遊び・グループワークとして再構成・発表(荻田)
第14回：ICTの活用<ICTを活用した表現活動の具体化>(浦野)
第15回：学習の振り返りと評価(木村・浦野・荻田)
定期試験

④ 参考書・参考資料等

幼児と表現 ミネルヴィ書房

幼稚園教育要領「同 解説」、「保育所保育指針」「同 解説書」：厚生労働省、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」「同 解説」：内閣府・文部科学省・厚生労働省

⑤ 学生に対する評価

全授業を通じて、学習内容の様子や気付きをポートフォリオにまとめ、学生自身の学びが可視化されたものを中心に総合的に判断する。

科目名	形態	単位	時間数	必修・選択	担当教員
子どもと音楽 I	演習	2	60	必修	浦野忍・萩田安里

① 授業の到達目標及びテーマ

基礎的な音楽知識と保育に必要な表現技術を身につけることを目標とし、到達目標は次のとおりとする。

- ・楽譜を理解し、楽曲を演奏できる。
- ・子どもの発達を考慮した音楽表現を実践できる。
- ・年齢に応じた表現活動が実践できる。

② 授業の概要

授業では数多くの楽曲を知り、演奏することで音楽に興味を持たせ、楽譜を理解することと音楽性を高めることに重点を置く。学生個々のレベルに応じて、個人、またはグループで授業を進めていく。

③ 授業の流れ

第1回：学習オリエンテーション（楽曲の必要性など）
 第2回：音について（自然の音、人為的な音）
 第3・4回：「音」「動き」「リズム」について
 第5・6回：楽譜の理解
 第7・8・9回：音符の理解
 第10回：音楽に用いられる記号と表現
 第11・12回：子どもの発達と音楽表現
 第13・14回：音階
 第15・16回：調号と調
 第17・18回：身近な素材を使ったリズム遊び
 第19・20回：季節感を生かした表現活動
 第21・22・23回：いろいろな楽器
 第24・25回：手づくり楽器
 第26・27回：コード（和音）
 第28・29回：コード進行
 第30回：学習の振り返りと評価

④ 教科書・参考資料等

本校編集テキスト こどもの歌200 小林美実編 チャイルド本社
 続こどもの歌 200 小林美実編 チャイルド本社
 幼稚園教育要領解説 文部科学省 フレーベル館
 保育所保育指針 厚生労働省 フレーベル館
 幼保連携型認定こども園教育・保育要領・同解説」内閣府・文部科学省・厚生

⑤ 学生にたいしての

学生に対する評価：筆記試験(40%)、実技試験(60%)

科目名	形態	単位	時間数	必修・選択	担当教員
子どもと音楽Ⅱ	演習	2	60	選択必修	浦野忍・萩田安里

① 授業の到達目標及びテーマ

基礎的な音楽知識と保育に必要な表現技術を身につけることを目標とし、到達目標は次のとおりとする。

- ・楽譜を理解し、音楽表現を工夫して演奏できる。
- ・バイエル終了程度以上の演奏ができる。
- ・指定された幼児楽曲の弾き歌いができる。

② 授業の概要

ピアノ演奏を通して、演奏法、表現法、音楽性を高め、保育者として必要な楽曲を演奏し、多様な応用性を身につける。個人レッスンを中心に、学生個々の音楽経験を考慮するとともに、演奏能力に合わせて進行する。

③ 授業の流れ

1	主なスケールとカデンツ	伴奏法について	16	世界中の子どもたちが
2	バイエルNo.100	さんぽ	17	にんげんっていいな
3	バイエルNo.102	小さな世界	18	星に願いを
4	バイエルNo.104	ドキドキドン！一年生	19	となりのトトロ
5	実技テスト及び復習		20	実技テスト及び復習
6	(さらに高い演奏技能)	ドレミの歌	21	にじ
7	Brg No.2	ミッキーマウスマーチ	22	ハッピーチルドレン
8	(さらに高い演奏技能)	いぬのおまわりさん	23	ともだちになるために
9	Brg No.15	ぼくのミックスジュース	24	きみとぼくのラララ
10	実技テスト及び復習		25	実技テスト及び復習
11	(さらに高い演奏技能)	ホ・ホ・ホ	26	任意の楽曲
12	Brg No.3	ゆき	27	
13	(さらに高い演奏技能)	大きな古時計	28	
14	Brg No.21	あわてんぼうのサンタクロース	29	
15	実技テスト及び復習		30	実技テスト及び復習

④ 教科書・参考資料等

本校編集テキスト
 こどもの歌 200 小林美実編 チャイルド本社
 続こどもの歌 200 小林美実編 チャイルド本社

⑤ 学生に対する評価

生に対する評価：グレードテスト(70%)、演習進行状況(30%)により、総合的に判断する。

科目名	形態	単位	時間数	必修・選択	担当教員
子どもと造形 I	演習	2	60	必修	木村節治

① 授業の達成目標及びテーマ

本授業は、保育を支える造形活動の基礎的技術の習得し、自らの造形的感性を磨き、子どもの発達段階に応じた「豊かな感性と表現」を引き出す表現指導ができたための子どもの造形活動の在り方や、造形活動の種類と内容、手法について学ぶ。

② 授業の概要

本授業は、保育を支える造形活動の基礎的技術の習得し、自らの造形的感性を磨き、子どもの発達段階に応じた「豊かな感性と表現」を引き出す表現指導ができたための子どもの造形活動の在り方や、造形活動の種類と内容、手法について学ぶ。

③ 授業の流れ

1回：保育における造形活動の意義 ① 子どもにとっての表現活動と領域「表現」	第16回：基礎理論と技術 ⑤廃物利用と保育
第2回：保育における造形活動の意義 ① 造形教育の歴史と広がり	第17回：基礎理論と技術 ⑥壁面製作と保育
第3回：乳幼児期の成長と表現類型 人間の感性と表現の関係性	第18回：基礎理論と技術 ⑦立体表現 紙工作
第4回：表現活動の発達と特徴 ② 描画の発達と指導 描画における線	第19回：基礎理論と技術 ⑧立体表現 粘土
第5回：表現活動の発達と特徴 ① 描画行為の発達と幼児画の特徴	第20回：幼児の表現活動としての伝承遊び
第6回：表現活動の発達と特徴 ② 色彩と心理的な絵画表現、	第21回：幼児の表現活動としての自然物
第7回：表現活動の発達と特徴 ② の読み取りと評価	第22回：表現活動の実践と環境構成 ①指導計画の立案と実践
第8回：表現活動の発達と特徴 ③ 作る活動の発達と指導	第23回：表現活動の実践と環境構成 ②指導計画の立案と実践
第9回：表現活動の発達と特徴 ⑥作る活動の行為の行為と活動展開	第24回：子どもの造形活動の意欲を育む指導法 総合的な活動をするためグループで指導案
第10回：造形に発展する素材と表現方法の手がかり	第25回：表現活動の発達と特徴
第11回：造形表現と様々な素材や道具との出会い	第26回：表現活動の発達と特徴
第12回：基礎理論と技術 ①平面表現活動と保育	第27回：表現活動の今後の課題
第13回：基礎理論と技術 ②平面表現絵画と保育	第28回：様々な表現造形指導のあり方
第14回：基礎理論と技術 ③平面表現貼り絵と保育	第29回：保育者に求められる表現技術と指導法
第15回：基礎理論と技術 ④平面表現版画と保育	第30回：グループ毎に学びのまとめと振り返り

④ 教科書及び参考資料等 幼児の造形表現・配布資料等

⑤ 学生に対する評価 試験、提出物、学習態度により総合的に評価する。

学習の内容の様子や気づきをポートフォリオにし、学生自身の学びの過程を評価する。

目名	形態	単位	時間数	必修・選択	担当教員
子どもと造形Ⅱ	演習	2	60	選択必修	木村節治

① 授業の到達目標及びテーマ

造形活動における子どもの心身の発達にふれ、発達段階に応じた素材や表現方法を考えることができる。保育実践において子どもの発達と表現の特徴を生かした、豊かな表現活動が展開できる援助法や環境構成について学ぶ。多彩な造形表現の体験を通して自らの創造性や実践力を身につける。

② 授業の概要

幼児の造形Ⅰの基本を踏まえ、子どもが楽しんで素材や環境に関わり主体的な表現活動を行うことができるには準備や教材研究がどのようにすればよいのか実践現場を通して学び、グループで話し合っ発表し合うことでさらに理解を深めていく。保育者としての造形表現力を豊かにするとともに、幼児の発達と表現の意味を理解し、子どもと一体となって楽しめる造形活動を模索し、より良い環境構成ができる力を身につける。また、多彩な造形表現の体験を通して自らの創造性や実践力を養う。

③ 授業の流れ

1	子どもの造形素材と用具 乳幼児期の成長と玩具	16	行事からみる保育と表現活動<12カ月>
2	子どもの造形素材の性質と扱い ① 素材の持つ多彩な表現の可能性	17	壁面と保育<廃物利用と保育>
3	子どもの造形素材の性質と扱い 直接表現の絵画活動と素材の特徴	18	絵本と表現活動<絵本とイメージ>
4	子どもの造形素材の性質と扱い ② 間接表現の立体造形活動	19	劇遊びと保育<表現活動と劇遊び>
5	子どもの造形素材の性質と扱い ⑤動くおもちゃと造形表現	20	表現活動と伝承遊び
6	子どもの造形素材の性質と扱い ⑥モニュメント・オブジェと保育	21	表現活動の素材としての自然物
7	子どもの造形素材の性質と扱い ⑦子どもと粘土遊び	22	折紙と保育<創造活動としての折り紙>
8	子どもの造形素材の性質と扱い ⑧モビールと生活	23	絵本を教材にした保育指導案の作成
9	平面表現を意識した保育指導案の作成	24	グループ模擬保育の実施
10	グループ模擬保育の実施	25	折り紙を教材に保育(指導案の作成)
11	立体表現を意識した保育指導案の作成	26	グループ模擬保育の実施
12	グループ模擬保育の実施	27	表現活動の今後の課題
13	立体表現を意識した保育指導案の作成	28	子どもの感性を引き出す楽しい指導法
14	グループ模擬保育の実施	29	保育者に求められる豊かな感性と表現力
15	グループ模擬保育の実施とその振り返り	30	グループ毎に学びのまとめと振り返り

④ 教科書及び参考資料等 幼児の造形表現・配布資料等

学生に対する評価 試験、提出物、学習態度により総合的に評価する。

⑤ 学生に対する評価

学習の内容の様子や気づきをポートフォリオにし、学生自身の学びの過程を評価する。

科目名	形態	単位	時間数	必修・選択	担当教員
子どもと体育	演習	2	60	必修	浦野忍

①授業の目的

子どもの運動経験を充実したものにするために、保育者は発育発達に関する基礎的な知識を理解し、年齢に応じた集団あそびや身体表現を提供することが求められる。この授業では保育者あるいは幼稚園教員として、体育原理、運動生理学、運動方法論などの基礎理論について学び、子どもが動く楽しさや喜びを感じながら安全に身体活動を行うためには、どのような援助や配慮が必要となるかについて演習する。

②学生の到達目標

- ・子どもの運動発達と体格・体力について理解し、年齢に応じた運動遊びを実践できる。
- ・安全を考慮した運動遊びを行うための援助や配慮を考えることができる。
- ・年齢に応じた運動遊びの指導計画案を作成することができる。

③授業の流れ

1	運動指導の考え方 1 人的環境	16	子どもの運動とリズム
2	運動指導の考え方 2 物的環境	17	体づくり運動について
3	運動指導の考え方 3 指導の展開	18	道具を使わないあそび 1 移動運動
4	運動指導と安全について 1	19	道具を使わないあそび 2 表現あそび
5	運動指導と安全について 2	20	小型遊具を使ったあそび 1 ボール
6	子どもの発育発達について	21	小型遊具を使ったあそび 2 フープ
7	子どもの体格・体力	22	小型道具を使ったあそび 3 なわ
8	子どもの運動能力	23	小型道具を使ったあそび 4 布
9	子どもの運動と心の発達	24	大型遊具を使ったあそび 1 マット
10	子どもの運動と知的発達	25	大型遊具を使ったあそび 2 平均台
11	集団あそび 1 鬼ごっこ	26	大型遊具を使ったあそび 3 跳び箱
12	集団あそび 2 リレー	27	大型遊具を使ったあそび 4 鉄棒
13	集団あそび 3 伝承あそび	28	運動あそびの指導の計画
14	集団あそび 4 ごっこあそび	29	運動指導の評価・反省について
15	前期復習	30	総復習

④教科書及び参考書

- 「幼児体育一基礎編一」監修／社団法人幼少年体育振興協会 柴岡三千夫著 タイケン出版
「幼児期運動指針実践ガイド」日本発育発達学会編 杏林書院
「こどもの事故と応急手当」マスターワークス
「幼稚園教育要領」「同 解説」文部科学省
「保育所保育指針」「同 解説書」厚生労働省
「幼保連携型認定子ども園教育・保育要領」「同 解説」内閣府・文部科学省・厚生労働省

⑤評価方法

平常点、授業内課題（実技含む）、テストによって総合的に判断する。

科目名	形態	単位	時間数	必修・選択	担当教員
幼児の歌遊び	演習	1	30	選択必修	荻田安里

① 授業の到達目標及びテーマ

領域「表現」におけるうたあそびの役割やその方法論を学ぶ。また、歌う活動を通してうたあそびの魅力を体感するとともに、教材研究を通して子供の発達に合ったうたあそびに関する内容や援助の方法、指導上の留意点を学ぶ。

② 授業の概要

領域「表現」におけるうたあそびの役割やその指導法、方法論について学ぶ。うたあそびに関する実践やグループ活動を通して、うたあそびの特徴や楽しさを体感するとともに、活動に対する理解を深めていく。また、教材研究を通して子供の発達に応じたうたあそびの活動内容やその指導、支援および実践力を身に付ける。

③ 授業の流れ

第1回：ねらいと内容①（領域「表現」における歌遊びとは）
 第2回：ねらいと内容②（子どもの発達と歌遊び）
 第3回：音楽とリズムの基礎的な要素①（リズム打ちとステップを中心に）
 第4回：音楽とリズムの基礎的な要素②（拍子、リズムパターン）
 第5回：実践①（わらべうた）
 第6回：実践②（唱歌）
 第7回：実践③（指・手遊び）
 第8回：実践④（身体遊び）
 第9回：実践⑤（ボイス・アンサンブル）
 第10回：実践⑥（合唱）
 第11回：教材研究①（遊び歌）
 第12回：教材研究②（即興表現あそび）
 第13回：創作と発表①
 第14回：創作と発表②
 第15回：創作と発表③及びまとめ
 定期試験

④ 教科書及び参考資料等

あそびうた大全集 200. 細田淳子（著）2016. 永岡書店. 幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説

⑤ 学生に対する評価

平常点（出欠、活動への参加意欲・態度等）40%、提出課題及び演習課題 60%

科目名	形態	単位	時間数	必修・選択	担当教員
幼児の造形遊び	演習	1	30	必修選択	木村節治

① 授業の到達目標及びテーマ

領域「表現」のねらいと内容を支える表現技術について理解を深め、造形遊びの重要性を認識し、子どもの生活や遊びの中で総合的に展開していく保育内容について学ぶ。また、造形表現に関する様々な教材研究を通して、子どもたちの豊かな表現遊びを支援するための能力を身につける。

② 学生の概要

領域、保育内容の理解に基づき、領域「表現」のねらいと内容を支える表現技術について理解を深め、表現の喜びを自ら味わうとともに子どもの造形遊びの重要性を認識する。また、子どもの生活や遊びの中で総合的に展開していく保育内容について理解し、保育を支える造形表現を様々な教材研究を通して、子どもたちの豊かな表現遊びを支援するための能力を身につける。

③ 授業の流れ

第1回：表現のねらいと内容①<感性と表現・表現とは何か>
第2回：表現のねらいと内容②<保育内容「表現」の位置付けと役割>
第3回：実践例 子どもの造形活動と遊び
第4回：実践例 主体的な造形遊び
第5回：実践例 子どもの興味を引き出す造形遊び
第6回：表現指導 身体を使った造形表現遊び
第7回：表現指導 五感を使った造形表現遊び
第8回：教材研究 素材との関わりを意識したと保育① 砂遊びと泥んこ遊びを中心に
第9回：教材研究 素材との関わりを意識したと保育① 自然の中での遊びを中心に
第10回：教材研究 素材との関わりを意識したと保育① 伝承遊びを中心に
第11回：教材研究 表現遊び① 子どもの紙芝居や絵本
第12回：教材研究 表現遊び②劇遊び< パネルシアター・ペープサート・ギョール・マリオネット>
第13回：教材研究 表現遊びと保育④ 劇遊び遊び・グループワークとして再構成・発表
第14回：教材研究 ICTを活用した表現造形遊び
第15回：学習の振り返りとまとめ

④ 教科書及び参考資料等

「幼児と表現」「幼稚園教育要領」「同 解説」、小学校学習指導要領：文部科学省、「保育所保育針」「同 解説書」厚生労働省、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」「同解説」：内閣府・文部科学省・厚生労働省

⑤ 学生に対する評価 学習内容の様子や気づきをポートフォリオにし、学生自身の学びの過程が可視化されたものを中心に総合的に判断する。

科目名	形態	単位	時間数	必修・選択	担当教員
幼児の運動遊び	演習	1	30	選択必修	浦野忍

① 授業の到達目標及びテーマ

幼児期の発育・発達の特徴を十分に理解し、幼児の実情に即応した運動遊びが展開できるように、自身の体験を通して動きを感じとりながら、子どもが動く喜びを感じ楽しみながら安全に身体活動を行うために必要な支援や配慮を習得していくことを目標とする。

② 授業の概要

バルシューレの基本原理をもとに、様々なボールを使って、様々なゲーム空間で、多様な運動やゲームを体験し、子どもの多面的な能力をできるだけ伸ばすため、多種多様な運動、ゲーム、さらに用具が選択されるよう、実践・演習をとおして、遊びが展開できるよう学習する。

③ 授業の流れ

第1回：バルシューレの基本原理
第2回：幼児におけるバルシューレのコンセプト
第3回：小学校低学年におけるバルシューレのコンセプト
第4回：バルシューレの方法論①現代社会における子どもの運動とスポーツ環境
第5回：バルシューレの方法論②運動・体力と健康の関係
第6回：バルシューレの方法論③運動・体力向上と脳機能の関係
第7回：バルシューレのプログラム実施における基本
第8回：プログラム実践例
第9回：運動系基礎スキルに関する実践
第10回：コーディネーション能力に関する実践
第11回：技術・戦術的基礎スキルに関する実践
第12回：グループワーク①プログラムの作成
第13回：グループワーク②プログラムの実践
第14回：グループワーク③プログラムの振り返りと修正
第15回：学習の振り返りと評価

④ 教科書及び参考資料等

「幼稚園教育要領・同 解説」：文部科学省、「保育所保育指針・同 解説書」：厚生労働省、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領・同 解説」：内閣府・文部科学省・厚生労働省

授業中に適宜資料を配付する。「教職の意義と教員の職務」 篠田信司著：三省堂、「保育者論の探究」 森上史朗・岸井慶子編：ミネルヴァ書房、「子どものボールゲーム指導プログラム バルシューレ～幼児から小学校低学年を対象に～」 奥田知靖編：創文企画、「バルシューレー幼児のためのボール遊びプログラム」ハイデルベルク大学スポーツ科学研究所・特別非営利活動法人バルシューレジャパン：東山書房

⑤ 学生に対する評価 ワークシートの記述内容(40%)、試験(60%)により、総合的に判断する。

科目名	形態	単位	時間数	必修・選択	担当教員
乳児保育 I	講義	2	30	必修	加藤由美（実務教員）

① 授業の到達目標及びテーマ

1. 乳児保育の意義・目的と歴史の変遷及び役割等について理解する。
2. 保育所、乳児院等多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について理解する。
3. 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容と運営体制について理解する。
4. 乳児保育における職員間の連携・協働及び保護者や地域の関係機関との連携について理解する。

② 授業の概要

乳児保育を取り巻く様々な問題や課題のある今日、保育所や乳児院の果たす役割、乳児保育を担当する保育士としての役割は重要となっている。この講義では、乳児期（3歳未満児）の発達と保育について学び、保育士として必要な乳児保育の理論や知識・技術の基本を具体的な事例を通して理解するとともに保育士の役割を自覚することを目指す。

③ 授業の流れ

1	オリエンテーション 乳児保育とは
2	乳児保育の意義・目的と歴史の変遷 ～乳児保育のあゆみ～
3	乳児保育の現状と課題
4	3歳未満児の発達の特徴① ～0歳児～
5	3歳未満児の発達の特徴② ～1歳児～
6	3歳未満児の発達の特徴③ ～2歳児～
7	乳児保育の内容と方法（基本的生活）
8	乳児保育の内容と方法（特別な配慮を必要とする子ども）
9	乳児保育の内容と方法（あそび）
10	乳児保育の内容と方法（あそびと環境）
11	保育の記録と計画
12	乳児保育における計画・記録・評価とその意義
13	乳児保育における連携・協働① 職員間の連携・協働
14	乳児保育における連携・協働② 保護者、自治体・関係機関との連携・協働
15	まとめと試験

④ 教科書及び資料

「改訂5版 資料でわかる 乳児の保育 新時代」 乳児保育研究会編 ひとなる書房
「保育所保育指針」 「同 解説書」 厚生労働省

⑤ 学生に対する評価

授業や演習の態度、提出物、試験に基づく総合評価

科目名	形態	単位	時間数	必修・選択	担当教員
乳児保育Ⅱ	演習	1	30	必修	加藤由美（実務教員）

① 授業の到達目標及びテーマ

1. 3歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりの基本的な考え方について理解する。
2. 養護及び教育の一体性を踏まえ、3歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境について、具体的に理解する。
3. 乳児保育における配慮の実際について、具体的に理解する。
4. 上記1～3を踏まえ、乳児保育における計画の作成について、具体的に理解する。乳児保育の意義・目的と歴史の変遷及び役割等について理解する。

② 授業の概要

乳児保育Ⅰで学んだ知識を基に、わが国における乳児保育の変遷と保育所・家庭の現状を確認しながら、保育所の果たす役割、乳児保育を担当する保育者としての役割を自覚し、保育所の果たす役割、乳児保育を担当する保育者として必要な乳児保育の理論や知識・技術の基本を具体的な事例を通して理解するとともに、3歳未満児の保育実践について学習し、ビデオによる映像、乳児の遊び文化、乳児保育の基本や援助技術等、演習課題に取り組みながら乳児保育の理解を深める。

③ 授業の流れ

1	乳児保育の基本①
2	乳児保育の基本②
3	乳児保育の基本③
4	乳児保育の基本④
5	乳児保育における子どもの発育・発達を踏まえた生活とあそびの実際①
6	乳児保育における子どもの発育・発達を踏まえた生活とあそびの実際②
7	乳児保育における子どもの発育・発達を踏まえた生活とあそびの実際③
8	乳児保育における子どもの発育・発達を踏まえた生活とあそびの実際④
9	乳児保育における子どもの発育・発達を踏まえた生活とあそびの実際⑤
10	乳児保育における配慮の実際①
11	乳児保育における配慮の実際②
12	乳児保育における配慮の実際③
13	乳児保育における計画の実際①
14	乳児保育における計画の実際②
15	まとめと試験

④ 教科書及び資料

「改訂5版 資料でわかる 乳児の保育 新時代」 乳児保育研究会編 ひとなる書房
「保育所保育指針」 「同 解説書」 厚生労働省

⑤ 学生に対する評価

授業や演習の態度、提出物、試験に基づく総合評価

科目名	形態	単位	時間数	必修・選択	担当教員
子どもの健康と安全	演習	1	30	必修	高木純子

① 授業の到達目標及び

- ・保育における保健的観点を踏まえた保育環境や援助について理解し、述べることができる。
- ・子ども特有の疾病及び事故予防とその対応について理解し、対応技術が実践できる。
- ・子どもの健康及び安全の管理に関わる保健活動計画及び評価方法を理解し、発表することができる。
- ・関連するガイドラインや近年のデータ等に基づき、衛生管理や感染症対策、事故防止や安全・危機・災害対策が具体的に理解でき実践方法を述べることができる。

② 授業の概要

子どもの健やかな成長のために必要な実践技術の理解と習得をし、主体性を持って相違・工夫できる能力を育てる。また関連するガイドラインや近年のデータの収集ができ、子ども特有の疾病や事故予防の対応技術を学び実践できるようにしていく。そして保育現場での健康及び安全の管理に関わる保健活動計画をまとめ、発表するコミュニケーション力や実践力を育てる。

③ 授業の流れ

1	子ども健康と保育の環境 個別対応と集団全体の健康及び安全管理
2	保育における健康及び安全・衛生管理と消毒液の種類と作り方
3	子どもの事故防止と安全対策
4	危機管理と災害の備え
5	子どもの体調不良や障害発生時の対応
6	子どもの応急処置 (外傷の処置、止血法、包帯法)
7	救急処置及び救急蘇生法
8	感染症の予防と罹患時の対応
9	3歳未満児への対応 ① おむつ交換と着替え
10	3歳未満児への対応 ② 沐浴と清拭
11	慢性疾患児への対応 アレルギー対応
12	障がいのある子どもへの対応
13	健康及び安全管理の実施体制 職員間や様々な関連機関との連携
14	保健活動についての計画、立案と評価
15	保健活動計画と子どもへの対応方法のまとめ

④ 教科書及び参考資料等

「保育者のためのわかりやすい子どもの保健」 飯島一誠 日本小児医事出版社 (2018)

⑤ 学生に対する評価

定期試験 60%、提出物 20%、計画立案、発表等 20%により総合的に判断する。

科目名	形態	単位	時間数	必修・選択	担当教員
社会的養護Ⅱ	演習	1	30	必修	新沼英明

① 授業の到達目標及びテーマ

- ・社会的養護における児童の権利養護や保育士等の倫理について具体的に理解できる。
- ・施設養護や家庭養護などの社会的養護の実際について理解できる。
- ・個々の児童に応じた個別支援計画の意義と作成手法について、日常生活支援、治療的支援、自立支援等の観点から理解し、実践できる。
- ・社会的養護を通して、家庭支援、児童家庭福祉、地域福祉の実践を系統的に理解できる。

② 授業の概要

本講義では、社会的養護施設や里親などの家庭養護の現状と課題について振り返り、そのうえでそれらの施設等において支援にあたる従事者（保育士等）が持つべき視点や援助技術を実践的に理解することを目的とする。

③ 授業の流れ

1	社会的養護における子どもの権利養護と保育者の責務①子どもの権利養護
2	社会的養護における子どもの権利養護と保育者の責務②保育者の倫理と責務
3	社会的養護の実施体系①乳児院・児童養護施設・母子生活支援施設の特性と実際
4	社会的養護の実施体系②児童心理治療施設・児童自立支援施設・障害児施設の特性と実際
5	社会的養護の実施体系③家庭養護の特性と実際
6	社会的養護における支援計画と内容①社会的養護におけるケースマネジメント
7	社会的養護における支援計画と内容②自立支援計画の作成
8	社会的養護における支援計画と内容③日常生活支援に関する事例分析
9	社会的養護における支援計画と内容④心理的支援に関する事例分析
10	社会的養護における支援計画と内容⑤自立支援に関する事例分析
11	社会的養護における支援計画と内容⑥記録および自己評価
12	社会的養護に関わる専門的技術①社会的養護における保育士の専門性
13	社会的養護に関わる専門的技術②社会的養護におけるソーシャルワーク
14	社会的養護に関わる専門的技術③施設における養育形態の小規模化と地域との関わり
15	社会的養護に関わる専門的技術④社会的養護の課題と展望

④ 教科書及び参考資料等

無し（プリントを配布するので A4 のファイルを用意すること）

⑤ 学生に対する評価

出席および授業参加状況（受講態度を含む）（50%）・課題・レポート等（50%）を基準として総合的に評価します。

科目名	形態	単位	時間数	必修・選択	担当教員
子育て支援	演習	1	30	必修	加藤由美（実務教員）

① 授業の到達目標及びテーマ

1. 保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援（保育相談支援）について、その特性と展開を具体的に理解する。
2. 保育士の行う子育て支援について、様々な場や対象に即した支援の内容と方法及び技術を、実践事例等を通して具体的に理解する。

② 授業の概要

少子高齢化、核家族化等の進行や地域社会や家庭における子育て環境のめまぐるしい変化の中、孤立しがちな母親の育児不安や負担は高まる一方である。このような時代背景の今、子どもと生活時間の多くを共にする保育現場への子育てに対する期待は多大である。保育相談支援は児童福祉法第18条の4に基づいた国家資格としての保育士に要請される子どもの保育と保護者に対する保育に関する指導も業務になった。子育て支援の基本理念、相談支援の方法・技術、保育現場における保護者支援の実際等について学習する。

③ 授業の流れ

1	子どもの保育とともにを行う保護者の支援
2	日常的・継続的な関わりを通じた保護者との相互理解と信頼関係の形成
3	保護者や家庭の抱える支援のニーズへの気づきと多面的な理解
4	子ども及び保護者の状況・状態の把握
5	支援の計画と環境の構成
6	支援の実践・記録・評価・カンファレンス
7	職員間の連携・協働
8	社会資源の活用と自治体・関係機関や専門職との連携・協働
9	保育所における支援
10	地域の子育て家庭に対する支援
11	障害のある子ども及びその過程に対する支援
12	保育所特別な配慮を要する子ども及び家庭に対する支援
13	子ども虐待の予防と対応及び要保護児童等の家庭に対する支援
14	多様な支援ニーズを抱える子育て家庭の理解
15	まとめと試験

④ 教科書及び参考資料等

「子育て支援」 新・基本保育シリーズ 中央法規
「保育所保育指針」「同 解説書」 厚生労働省

⑤ 学生に対する評価

授業や演習の態度、提出物、試験に基づく総合評価

科目名	形態	単位	時間数	必修・選択	担当教員
教育実習（事前・事後指導）	実習	1	45	必修	杉浦宏幸（実務教員） 坂部良二（実務教員） 彦坂美希（実務教員）

① 授業の到達目標及びテーマ

- ・教育実習に臨む心構えをはっきりとさせ、実習の方法・内容を明確にし、実習で何を学んでくのか目的をもつ。
- ・実習に必要な心得や態度、留意点などがしっかりと理解できている。
- ・実習先について理解を深め、実習の目的を明確に持つことができる。
- ・実習現場で必要な知識、技能、態度を身につけている。
- ・実習を振り返り、学舎反省から自己の課題を明確に述べるができる。

② 授業の概要

本授業は、教師自身が環境そのものであることを自覚し、教育実習に臨む心構えを持ち、実習の方法・内容を舞核に把握し、実習園で何を学び取ってくるのかという目的をはっきりとさせる。実習後は、実習を振り返り、学びや反省から自己の課題を明確にする。

③ 授業の流れ

第1回：教育実習Ⅰの意義と内容（杉浦・坂部）	第11回：教育実習Ⅱの意義と内容（彦坂）
第2回：教育実習の基本と幼児理解 （新教育要領と現場の状況）（杉浦・坂部）	第12回：教育実習の基本と実習生の心構え（彦坂）
第3回：実習生の心構え （実習前・実習中・実習後）（杉浦・坂部）	第13回：実習課題の設定（彦坂）
第4回：実習の形態と方法（杉浦・坂部）	第14回：幼児理解、保育理解と記録の書き方（彦坂）
第5回：観察実習の方法と内容（杉浦・坂部）	第15回：指導実習のねらいと内容（彦坂）
第6回：参加実習の方法と内容（杉浦・坂部）	第16回：指導計画案の立案のし方（彦坂）
第7回：指導実習のねらいと内容（杉浦・坂部）	第17回：指導計画案の立案（彦坂）
第8回：指導計画 （長期計画・短期計画）の見方（杉浦・坂部）	第18回：模擬保育の実施（彦坂）
第9回：指導案の立て方（杉浦・坂部）	第19回：模擬保育の反省と評価（彦坂）
第10回：職員の職務と園内研修への参加 （杉浦・坂部）	第20回：実習直前指導（彦坂）
	第21回；実習記録の整理（彦坂）
	第22回：実習記録の整理（彦坂）
	第23回：実習発表と今後の課題（彦坂）

④ 教科書及び参考資料等

「よくわかる幼稚園実習」創成社

「幼稚園教育要領」「同 解説」、「保育所保育指針」「同 解説書」：厚生労働省

幼保連携型認定こども園教育・保育要領」「同 解説」：内閣府・文部科学省・厚生労働省

⑤ 学生に対する評価

提出物（50%）、授業態度（50%）

科目名	形態	単位	時間数	必修・選択	担当教員
保育実習指導 I (施設)	演習	1	30	必修	飯島 優子

① 授業の目的

福祉施設における実習についてその目的を理解し、実施に向けての準備を行う。さらに、実習後には自己の実習を振り返り、保育者としての自己課題を明確にすることをめざす。

② 学生の到達目標

- ・福祉施設における保育士の役割について理解できる。
- ・実習内容を理解し、実習で何を学ぶかという自己目標を明確にし、それを説明できる。
- ・実習を振り返り、新しい自己課題について述べるができる。

③ 授業の流れ

1	保育実習 I (施設) の意義
2	実習内容の理解
3	福祉施設の種類と特性
4	福祉施設での保育士の役割
5	施設別実習内容の理解
6	実習課題の明確化
7	実習の心構えの作成
8	実習計画作成の意義
9	実習計画表の作成
10	実習記録の書き方①
11	実習記録の書き方②
12	実習直前指導
13	実習総括① 実習報告と評価
14	実習総括② 新たな学習目標の明確化
15	実習報告会

④ 教科書及び参考文献

「保育士をめざす人の福祉施設実習」 (みらい)
「保育所保育指針」「同 解説書」 厚生労働省

⑤ 学生に対する評価

各種提出物の提出状況および内容、平常点によって評価する。

科目名	形態	単位	時間数	必修・選択	担当教員
保育実習指導 I (保育所)	演習	1	30	必修	加藤由美 (実務教員)

① 授業の到達目標及びテーマ

- ・実習に必要な心得や態度、留意点などがしっかりと理解できている。
- ・実習先について理解を深め、実習の目的を明確に持つことができる。
- ・実習現場で必要な知識、技能、態度を身につけている。
- ・実習を振り返り、学びや反省から自己の課題を明確に述べるができる。

② 授業の概要

保育実習の意義や目的を理解し、実習に対する目的意識を高め、実習に臨む心構えをもつ。子どもの最善の利益の具体化に向けた保育士の役割について理解し、保育実習に必要な知識、技能、態度等を総合的に習得することを目指す。実習後、今後の自分の学習課題を明確にする。

③ 授業の流れ

1	保育実習 I (保育所) の意義と目的の理解
2	実習内容の理解
3	実習の心構えの理解と子どもの人権尊重についての理解
4	保育所保育の理解
5	実習課題の明確化
6	実習計画の意義の理解と作成
7	実習記録の意義と書き方の理解
8	指導案の意義と書き方の理解
9	指導案の作成方法の理解
10	指導案の作成
11	保育技術の研究
12	実習直前指導
13	実習の総括及び評価 ①
14	実習の総括及び評価 ②
15	新たな学習目標の明確化 ①

④ 教科書及び参考文献

「よくわかる保育所実習」 百瀬ユカリ著 創成社
「保育所保育指針」「同 解説書」 厚生労働省

⑤ 学生に対する評価

授業や演習の態度、提出物、出席状況等によって総合的に評価する。

科目名	形態	単位	時間数	必修・選択	担当教員
保育実習 I (施設)	実習	2	90	必修	飯島優子

① 授業の目標及びテーマ

1. 児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解する。
2. 観察や子どもとの関わりを通して子どもへの理解を深める。
3. 既習の教科目の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に理解する。
4. 保育の計画・観察・記録及び自己評価等について具体的に理解する。
5. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的に理解する

② 授業の概要

1. 施設の役割と機能
2. 子どもの理解
3. 施設における子どもの生活と環境

③ 授業の流れ

1. 施設の役割と機能
 - (1) 施設における子どもの生活と保育士の援助や関わり
 - (2) 施設の役割と機能
2. 子どもの理解
 - (1) 子どもの観察とその記録
 - (2) 個々の状態に応じた援助や関わり
3. 施設における子どもの生活と環境
 - (1) 計画に基づく活動や援助
 - (2) 子どもの心身の状態に応じた生活と対応
 - (3) 子どもの活動と環境
 - (4) 健康管理、安全対策の理解
4. 計画と記録
 - (1) 支援計画の理解と活用
 - (2) 記録に基づく省察・自己評価
5. 専門職としての保育士の役割と倫理
 - (1) 保育士の業務内容
 - (2) 職員間の役割分担や連携
 - (3) 保育士の役割と職業倫理

科目名	形態	単位	時間数	必修・選択	担当教員
保育実習Ⅰ（保育所）	実習	2	90	必修	加藤由美（実務教員）

① 授業の目標及びテーマ

1. 児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解する。
2. 観察や子どもとの関わりを通して子どもへの理解を深める。
3. 既習の教科目の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に理解する。
4. 保育の計画・観察・記録及び自己評価等について具体的に理解する。
5. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的に理解する。

② 授業の概要

1. 保育所の役割と機能
2. 子どもの理解
3. 保育内容・保育環境
4. 保育の計画・観察・記録
5. 専門職としての保育士の役割と職業倫理

③ 授業の流れ

1. 保育所の役割と機能
 - (1) 保育所における子どもの生活と保育士の援助や関わり
 - (2) 保育所保育指針に基づく保育の展開
2. 子どもの理解
 - (1) 子どもの観察とその記録による理解
 - (2) 子どもの発達過程の理解
 - (3) 子どもへの援助や関わり
3. 保育内容・保育環境
 - (1) 保育の計画に基づく保育内容
 - (2) 子どもの発達過程に応じた保育内容
 - (3) 子どもの生活や遊びと保育環境
 - (4) 子どもの健康と安全
4. 保育の計画・観察・記録
 - (1) 全体的な計画と指導計画及び評価の理解
 - (2) 記録に基づく省察・自己評価
5. 専門職としての保育士の役割と職業倫理
 - (1) 保育士の業務内容
 - (2) 職員間の役割分担や連携・協働
 - (3) 保育士の役割と職業倫理

目名	形態	単位	時間数	必修・選択	担当教員
保育実習指導Ⅱ	実習	2	30	選択必修	加藤由美（実務教員）

① 学生の到達目標

1. 保育所の役割や機能について、具体的な実践を通して理解を深める。
2. 子どもの観察や関わりの視点を明確にすることを通して、保育の理解を深める。
3. 既習の教科目や保育実習Ⅰの経験を踏まえ、子どもの保育及び子育て支援について総合的に理解する。
4. 保育の計画・実践・観察・記録及び自己評価等について、実際に取り組み、理解を深める。
5. 保育士の業務内容や職業倫理について、具体的な実践に結びつけて理解する。
6. 実習における自己の課題を明確化する。

② 授業の概要

1. 保育所の役割や機能の具体的展開
2. 観察に基づく保育の理解
3. 子どもの保育及び保護者・家庭への支援と地域社会等との連携
4. 指導計画の作成・実践・観察・記録・評価
5. 保育士の業務と職業倫理
6. 自己の課題の明確化

③ 授業の流れ

1. 保育所の役割や機能の具体的展開
 - (1) 養護と教育が一体となって行われる保育
 - (2) 保育所の社会的役割と責任
2. 観察に基づく保育の理解
 - (1) 子どもの心身の状態や活動の観察
 - (2) 保育士等の援助や関わり
 - (3) 保育所の生活の流れや展開の把握
3. 子どもの保育及び保護者・家庭への支援と地域社会等との連携
 - (1) 環境を通して行う保育、生活や遊びを通して総合的に行う保育
 - (2) 入所している子どもの保護者に対する子育て支援及び地域の保護者等に対する子育て支援
 - (3) 関係機関や地域社会との連携・協働
4. 指導計画の作成・実践・観察・記録・評価
 - (1) 全体的な計画に基づく指導計画の作成・実践・省察・評価と保育の過程の理解
 - (2) 作成した指導計画に基づく保育の実践と評価
5. 保育士の業務と職業倫理
 - (1) 多様な保育の展開と保育士の業務
 - (2) 多様な保育の展開と保育士の職業倫理
6. 自己の課題の明確化

科目名	形態	単位	時間数	必修・選択	担当教員
保育実習Ⅱ（保育所）	実習	2	90	選必	加藤由美（実務教員）

② 授業の目標及びテーマ

1. 児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解する。
2. 観察や子どもとの関わりを通して子どもへの理解を深める。
3. 既習の教科目の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に理解する。
4. 保育の計画・観察・記録及び自己評価等について具体的に理解する。
5. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的に理解する。

④ 授業の概要

1. 保育所の役割と機能
2. 子どもの理解
3. 保育内容・保育環境
4. 保育の計画・観察・記録
5. 専門職としての保育士の役割と職業倫理

⑤ 授業の流れ

1. 保育所の役割と機能
 - (1) 保育所における子どもの生活と保育士の援助や関わり
 - (2) 保育所保育指針に基づく保育の展開
2. 子どもの理解
 - (1) 子どもの観察とその記録による理解
 - (2) 子どもの発達過程の理解
 - (3) 子どもへの援助や関わり
3. 保育内容・保育環境
 - (1) 保育の計画に基づく保育内容
 - (2) 子どもの発達過程に応じた保育内容
 - (3) 子どもの生活や遊びと保育環境
 - (4) 子どもの健康と安全
4. 保育の計画・観察・記録
 - (1) 全体的な計画と指導計画及び評価の理解
 - (2) 記録に基づく省察・自己評価
5. 専門職としての保育士の役割と職業倫理
 - (1) 保育士の業務内容
 - (2) 職員間の役割分担や連携・協働
 - (3) 保育士の役割と職業倫理

目名	形態	単位	時間数	必修・選択	担当教員
保育実習指導Ⅲ	実習	2	30	選択必修	飯島優子

① 授業の到達目標及びテーマ

- ・福祉施設における保育士の社会的役割について理解できる。
- ・実習内容を理解し、実習で何を学ぶかという自己目標を明確にし、それを説明できる。
- ・実習を振り返り、新しい自己課題について述べるができる。

② 授業の概要

実習や既習の教科内容やその関連性を踏まえ、保育実践力を培うとともに、事後指導を通して、実習をふりかえる。保育士の専門性と職業倫理を理解したうえで、保育に対する課題や認識を明確にする。

③ 授業の流れ

1	施設実習の意義・目的の理解
2	施設の社会的役割の理解
3	利用者の理解
4	施設職員の理解
5	実習の概要の理解
6	実習課題の明確化
7	利用者の人権と最善の利益の考慮
8	プライバシーの保護と守秘義務
9	実習の心構えの理解
10	実習計画表の作成
11	保育の観察、記録の観点と配慮事項
12	保育士の専門性と職業倫理についての理解
13	実習の報告
14	実習の総括と自己評価
15	課題の明確化

④ 教科書及び参考資料等

- 「保育士をめざす人の福祉施設実習」(みらい)
「保育所保育指針解説」

⑤ 学生に対する評価

各種提出物の提出状況及び内容、平常点によって評価する。

科目名	形態	単位	時間数	必修・選択	担当教員
保育実習Ⅲ	実習	2	90	選択必修	飯島 優子

① 授業の目標及びテーマ

1. 児童福祉施設等の役割や機能について実践を通して理解を深める。
2. 家庭と地域の生活実態にふれて、児童家庭福祉・社会的養護に対する理解をもとに、保護者支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を養う。
3. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結び付けて理解する。
4. 保育士としての自己の課題を明確化する。

② 授業の概要

1. 施設の役割と機能
2. 子どもの理解
4. 施設における子どもの生活と環境

③ 授業の流れ

1. 児童福祉施設の役割と機能
2. 施設における支援の実際
 - (1) 受容し、共感する態度
 - (2) 個人差や生活環境に伴う子どものニーズの把握と子ども理解
 - (3) 個別の支援改革の作成と実践
 - (4) 子どもの家族への支援と対応
 - (5) 多様な専門職との連携
 - (6) 地域社会との連携
3. 保育士の多様な業務と職業倫理
4. 保育士としての自己課題の明確化

科目名	形態	単位	時間数	必修・選択	担当教員
教育実習 I	実習	2	90	必修	杉浦宏幸（実務教員）

① 授業の到達目標及びテーマ

- ・福祉施設における保育士の社会的役割について理解できる。
- ・実習内容を理解し、実習で何を学ぶかという自己目標を明確にし、それを説明できる。
- ・実習を振り返り、新しい自己課題について述べることができる。

② 授業の概要

実習や既習の教科内容やその関連性を踏まえ、保育実践力を培うとともに、事後指導を通して、実習をふりかえる。保育士の専門性と職業倫理を理解したうえで、保育に対する課題や認識を明確にする。

③ 授業の流れ

1	施設実習の意義・目的の理解
2	施設の社会的役割の理解
3	利用者の理解
4	施設職員の理解
5	実習の概要の理解
6	実習課題の明確化
7	利用者の人権と最善の利益の考慮
8	プライバシーの保護と守秘義務
9	実習の心構えの理解
10	実習計画表の作成
11	保育の観察、記録の観点と配慮事項
12	保育士の専門性と職業倫理についての理解
13	実習の報告
14	実習の総括と自己評価
15	課題の明確化

科目名	形態	単位	時間数	必修・選択	担当教員
教育実習Ⅱ	実習	2	90	必修	彦坂美希（実務教員）

① 授業の到達目標及びテーマ

- ・福祉施設における保育士の社会的役割について理解できる。
- ・実習内容を理解し、実習で何を学ぶかという自己目標を明確にし、それを説明できる。
- ・実習を振り返り、新しい自己課題について述べるができる。

② 授業の概要

実習や既習の教科内容やその関連性を踏まえ、保育実践力を培うとともに、事後指導を通して、実習をふりかえる。保育士の専門性と職業倫理を理解したうえで、保育に対する課題や認識を明確にする。

③ 授業の流れ

1	施設実習の意義・目的の理解
2	施設の社会的役割の理解
3	利用者の理解
4	施設職員の理解
5	実習の概要の理解
6	実習課題の明確化
7	利用者の人権と最善の利益の考慮
8	プライバシーの保護と守秘義務
9	実習の心構えの理解
10	実習計画表の作成
11	保育の観察、記録の観点と配慮事項
12	保育士の専門性と職業倫理についての理解
13	実習の報告
14	実習の総括と自己評価
15	課題の明確化

科目名	形態	単位	時間数	必修・選択	担当教員
保育・教職実践演習	演習	2	60	必修	杉浦宏幸（実務教員） 坂部良二（実務教員） 木村節治 浦野 忍

① 授業の到達目標及びテーマ

- ・自分の課題に気づき、自分の決めた方法で追及し、レポートにまとめることができる。
- ・追究結果をグループ内で発表し合い、感想を出し合うことができる。
- ・子どものエピソード記述をもとに、自ら選んだ事例について、考察をまとめることができる。

② 授業の概要

- ・幼稚園・保育園の学級経営について、自分の考えをまとめ、発表することができる。
- ・履修歴、教育実習、保育実習を振り返る中で、現場に立つ教員として必要な知識・技能を自ら確認し、不足している部分を追究する。
- ・幼児理解や学級経営についての基礎的な知識の補完とより実践的な技能の習得を図る。

③ 授業の流れ

1	◇オリエンテーション 授業の全体計画と学習の方法・評価について
	◇自己課題の追究（オムニバス方式 杉浦・坂部・木村・浦野）
2・3	・学修歴の確認（履修カルテ）
4・5	・自分の課題をつかむ
	課題Ⅰ：幼児教育全般の課題（発達、保育・教育課程につなげて） 課題Ⅱ：保育技術等の課題（幼稚園等における保育・教育課程へつなげて）
6・7	・それぞれの課題のクローズアップ（自分に不足する力量の分析）
8・9	・課題の決定・追究
10・11	・自己課題追究
12～19	・追究
20～21	・追究レポート（小論文）づくり
22～25	・発表・グループ討議・評価
25	◇幼児理解の事例研究（藤澤・杉浦）
26・27	・個人追究（追究レポート）
28・29	・グループ討議（事例別グループ）
30	・レポートの作成
	◇学級経営の事例研究（・杉浦）
	・保育園・幼稚園の担任の仕事を考える
	・滝子幼稚園の担任、たきこ幼児園の担任が自分のクラス経営について発表する
	・二人の話の感想をグループ別に発表し合い、感想をまとめ、評価をする

④ 教科書及び参考書

- 「幼稚園教育要領」「同 解説」 文部科学省
「保育所保育指針」「同 解説書」 厚生労働省
「幼保連携型認定子ども園教育・保育要領」 内閣府・文部科学省・厚生労働省

⑤ 評価方法

- ・追究レポートの内容（50%）、発表内容・討議への参加・出席・発言等の学習態度（50%）

